

「令和6年度全国学力・学習状況調査」の
結果について

令和6年8月26日（月）

富山市教育委員会

目 次

I	本調査の目的	1
II	実施状況	1
III	教科に関する結果の概況	
1	教科区分別平均正答率 (%)	1
2	結果の概要	1
IV	本調査結果の考察	
1	教科に関する調査の結果から	
(1)	小学校国語	2
(2)	小学校算数	4
(3)	中学校国語	6
(4)	中学校数学	8
2	児童生徒質問調査の結果から	10
3	学校質問調査の結果から	12
V	今後の取り組み	
1	調査結果の取り扱い	14
2	教科に関する調査と児童生徒質問調査、及び 学校質問調査の関連	14
3	授業改善に向けた指導の重点	18
	〈資料〉	
1	教科区分別平均正答率の推移	資料－ 1
2	小学校6年生 設問別結果一覧	資料－ 4
3	中学校3年生 設問別結果一覧	資料－ 8
4	児童生徒質問調査	資料－ 12
5	学校質問調査	資料－ 17

「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果概況について

富山市教育委員会

I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

II 実施状況

- 1 実施期日 令和6年4月18日（木）
- 2 調査内容 教科に関する調査 国語、算数・数学
質問調査 児童生徒、学校
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
62校1分校	2,982人	25校1分校	3,002人

III 教科に関する結果の概況

- 1 教科区分別平均正答率（％）

	小学校6年		中学校3年	
	国語	算数	国語	数学
富山市	68	64	60	56
富山県	69	64	60	56
全 国	68	63	58	53

- 2 結果の概要

- ・小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は同等であり、算数は1ポイント上回っている。
- ・中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は2ポイント、数学は3ポイント上回っている。
- ・平均正答率を県と比較すると、小学校では国語は1ポイント下回り、算数は同等である。中学校では国語、数学ともに同等である。

Ⅳ 本調査結果の考察

1 教科に関する調査の結果から

(1) 小学校国語

<集計結果>

- 以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

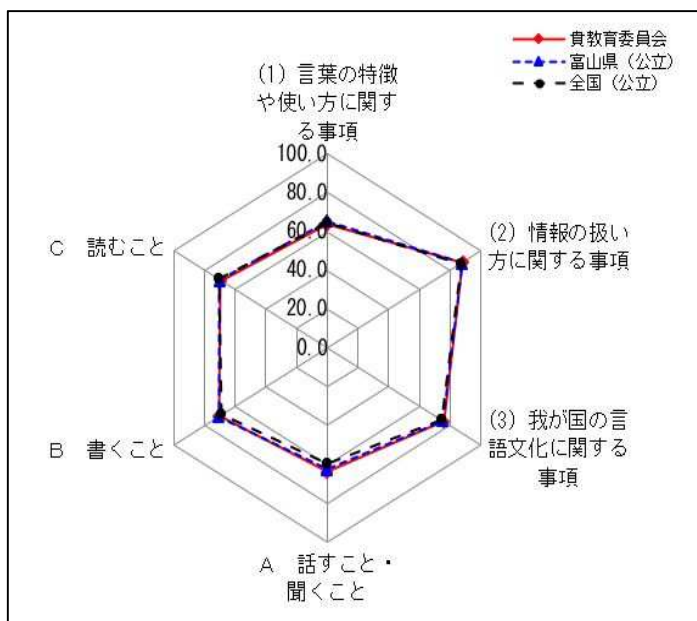
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	68	69	67.7

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
				富山市		富山県	全国
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	▲	63.5	65.4	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	◎	88.1	87.7	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	◎	75.7	75.1	74.6
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	◎	63.7	62.5	59.8
		B 書くこと	2	○	70.4	70.7	68.4
		C 読むこと	3	▲	69.3	70.0	70.7
評価の観点		知識・技能	6	▲	69.6	70.7	69.8
		思考・判断・表現	8	◎	67.5	67.3	66.0
		主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式		選択式	10	◎	71.6	71.2	69.9
		短答式	2	▲	58.2	60.7	59.7
		記述式	2	▲	62.5	64.6	64.6

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 平均正答率を全国と比較すると、0.3ポイント上回っている。
- 内容の「思考力、判断力、表現力等」では、「話すこと・聞くこと」において、全国より3.9ポイント、県より1.2ポイント上回っている。観点ごとの平均正答率では、思考・判断・表現で全国より1.5ポイント、県より0.2ポイント上回っている。
- 問題形式のうち、「短答式」の問題の平均正答率は、全国より1.5ポイント、県より2.5ポイント下回っている。「記述式」の問題の平均正答率は、全国より2.1ポイント、県より2.1ポイント下回っている。

(凡例:○よい点、●指導の改善が望まれる点)

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 【物語】※ アからエと、①から④、

の内容は、あとの問いで取り上げられます。

原文を読んで、内容を要約し、問いに答えなさい。

（松居スーザン「オニグモじいさんの朝ごはん」による。）

文章の内容については、調査問題をよく読んでください。

三 原さんは、鳥さんと話し合ったあと、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

 - 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。
 - 「物語」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

解答らん

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

◆	
---	--

100字

100字

- 3 -

(2) 小学校算数

<集計結果>

- 以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

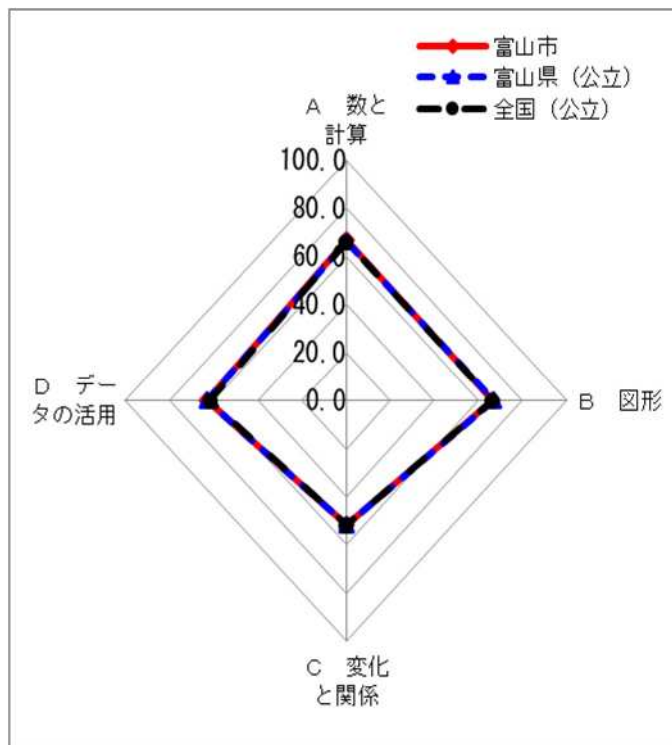
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	64	64	63.4

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	◎ 66.7	66.4	66.0	
	B 図形	4	○ 66.4	66.9	66.3	
	C 測定	0				
	C 変化と関係	3	▲ 51.6	51.6	51.7	
	D データの活用	4	○ 63.2	63.3	61.8	
評価の観点	知識・技能	9	◎ 73.8	73.6	72.8	
	思考・判断・表現	7	▲ 51.0	51.6	51.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	5	◎ 76.7	76.6	75.3	
	短答式	7	◎ 62.7	62.4	62.0	
	記述式	4	▲ 49.6	50.8	51.0	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国平均正答率と比較すると、0.6ポイント上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「A 数と計算」で0.7ポイント、「B 図形」で0.1ポイント全国を上回っている。
- 評価の観点ごとの平均正答率は、「知識・技能」で1.0ポイント全国を上回っている。
- 問題形式ごとの平均正答率は、「選択式」が1.4ポイント、「短答式」が0.7ポイント全国を上回っている。
- 評価の観点ごとの平均正答率において、「思考・判断・表現」が51.0ポイントとなっており、全国、県ともに下回っている。
- 問題形式ごとの平均正答率において「記述式」が49.6ポイントとなっており、全国、県ともに下回っている。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

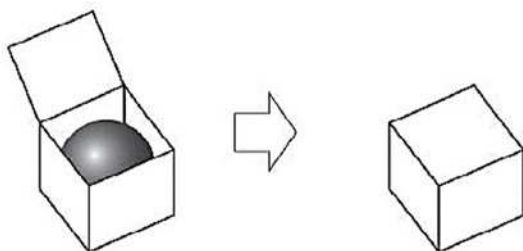
(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「数と計算」は、平均正答率が66.7%と4つの区分の中で最も高い。「数量の関係を□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題」では、平均正答率は89.8%で、全ての問題の中で最も高い。数量の関係を表す式について理解するとともに、数量の関係を□などを用いて式に表現する力が身についている。(問題1(2))
- 区分「図形」の「直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題」では、平均正答率は全国を2.5ポイント上回り、県とは同値であった。直方体を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について理解することができている。(問題3(1))
- 区分「データの活用」の「簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題」では、平均正答率が全国を2.0ポイント、県を0.8ポイント上回った。データの分析にかかわる数学的活動を通して、様々な観点からデータを分類整理し、表に表したり読み取ったりする力が育っている。(問題5(2))
- 区分「図形」の「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題」では、平均正答率が全国を1.7ポイント下回り、34.8%であった。立方体の一辺の長さをとらえることはできているが、立方体の体積の求め方が理解できていなかったと考えられる。また、問題文の読み誤りにより、球の体積を求めようとしていたことも考えられる。球の形をしたボールを立方体の形をした箱に実際に入れて観察したり、球の直径の長さや立方体の一辺の長さを計測したりするなど、立体図形に関わる数学的活動の充実が必要である。(問題3(3))
- 区分「変化と関係」の「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題」では、平均正答率が29.3%であり、全ての問題の中で最も低い。どちらが速いのかの判断はできるが、その理由の説明が不十分であったことがうかがえる。目的に応じて大きさを比べたり、表現したりするなどの単位量当たりの大きさにかかわる数学的活動を通して実感を持った理解につなげるとともに、考えの理由を説明するなどの言語活動の充実が求められる。(問題4(3))

(3) 直径22 cmの球の形をしたボールがあります。

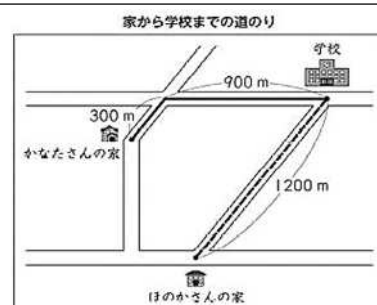


このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

(● 問題3(3) 正答率34.8%)



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

(● 問題4(3) 正答率29.3%)

(3) 中学校国語

<集計結果>

- ・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

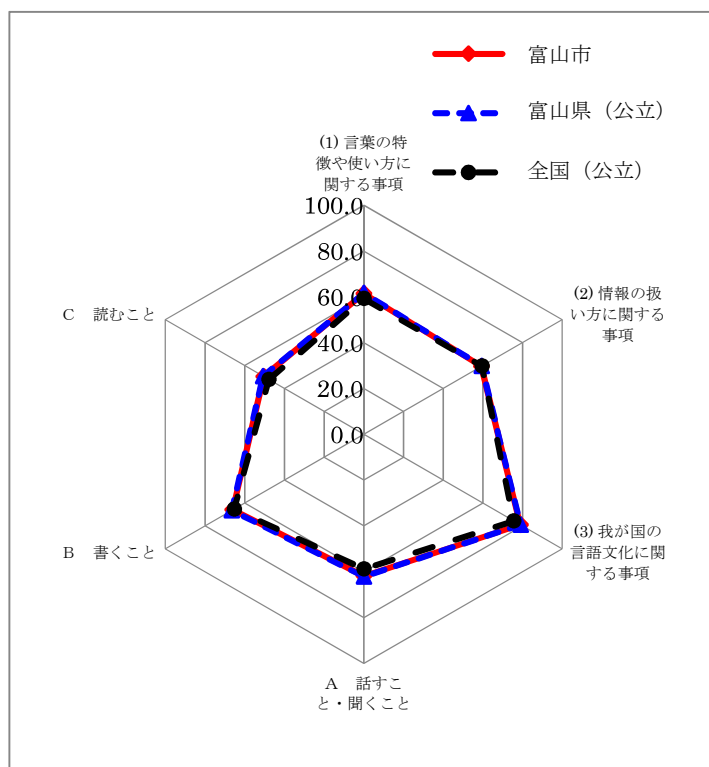
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	60	60	58.1

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
				富山市		富山県	全国
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	○	61.4	61.6	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	▲	59.3	59.5	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	○	78.9	79.1	75.6
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	○	61.9	62.1	58.8
		B 書くこと	2	○	66.0	66.5	65.3
		C 読むこと	4	○	50.4	50.7	47.9
評価の観点		知識・技能	6	○	63.6	63.8	62.0
		思考・判断・表現	9	○	57.7	58.0	55.4
		主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式		選択式	9	○	62.5	62.6	61.0
		短答式	3	○	63.8	64.8	61.8
		記述式	3	○	48.9	49.1	45.5

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 平均正答率を全国と比較すると1.9ポイント上回っている。「知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項」以外の領域、評価の観点、問題形式別で全国を上回っている。
- 領域別の平均正答率は、「知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項」において、全国を3.3ポイント上回っている。
- 平均正答率を県と比較すると、すべての領域、評価の観点で下回っている。また、問題形式においても、すべての形式で県を下回っており、特に短答式においては、1ポイント下回っている。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

- 区分「話すこと・聞くこと」の「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題」では、正答率は50.0%であるが、全国平均を5.3ポイント上回っている。記述式の問題形式だが、無答率が8.6%と10%を下回っており、自分の考えを進んでまとめようとしたことがうかがえる。(問題1四)
- 区分「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」の「表現の技法について理解しているかどうかをみる問題」では、正答率が59.9%で全国平均を5.0ポイント上回っており、表現技法に関する知識が身につけている。(問題4一)
- 区分「書くこと」の「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題」の正答率は80.2%と全問題の中で最も高いが、全国平均を1.2ポイント下回っている。「書くこと」の授業の中で、目的に応じて材料を吟味する指導を積極的に行っていきたい。(問題3一)
- 区分「話すこと・聞くこと」の「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題」の正答率は43.6%と全問題の中で2番目に低く、全国を0.4ポイント下回っている。問題1四で、話合いの展開を捉えて自分の考えをまとめる正答率が全国に比べて高いことを踏まえると、話合いの内容を自分に引き寄せて考えることはできるが、内容を客観的に捉え、情報を結び付けたり、整理したりすることに課題があることがうかがえる。ここでは、「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので」という理由部分にのみ着目し、「自分とは異なる価値観に触れる」という話し手の意見が把握できなかったと考えられる。社会にあふれる情報を取捨選択し、自分の生活に生かす力を身につけるためには、どの領域においても、情報を正確に理解し、目的に応じて整理したり、情報を関係付けたりする学習を積極的に行いたい。例えば、ある程度の長さのある文章や新聞記事、多様なジャンルの資料から目的に応じて情報を取り出したり、整理したりする。その際に、意見と根拠、具体と抽象を意識するように働きかけることで、より正確に内容を理解することができるだろう。さらに、表やフローチャート、相関図、階層、シンキングツール(Googleドライブ>共有ドライブ>教育センター(市内小・中学校共有)>2授業>3シンキングツール)等、情報を整理したり関係づけたりする方法を工夫することも大切である。(問題1三)

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

三 「話し合いの一言」(読解③)「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分の価値観に触れることもできますね」という発言について説明したとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという考えで、具体例を示しながら話している。

2 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。

3 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることにつながるという意見を、理由を明確にして述べている。

4 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという事実を、具体例を示しながら述べている。

① 私、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

② たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。

③ そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。④ (図)のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでるのですか。

⑤ 私は、図書館や書店で本を選んでます。読みたい本を見付けるのには時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がる感じています。

⑥ 図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が届くような状態にはならないでしょうか。

⑦ そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している僕の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

⑧ そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

⑨ フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

① 山岡さんは、図解の時に、フィルターバブル現象の資料と話し合いの一言を結んで、あとの方に書きました。次のフィルターバブル現象の資料

② 皆さんの、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

③ 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている特撮に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

④ (解説)の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

⑤ 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

(図) フィルターバブル現象

自分の好み情報だけに囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

⑥ (解説) インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解所されることで、その利用者の好み情報優先的に表示されるようになる。一方で、好まないや判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなる状態のことを「フィルターバブル現象」という。例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

(●問題1三 正答率43.6%)

(5) 中学校数学

＜集計結果＞

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域・観点

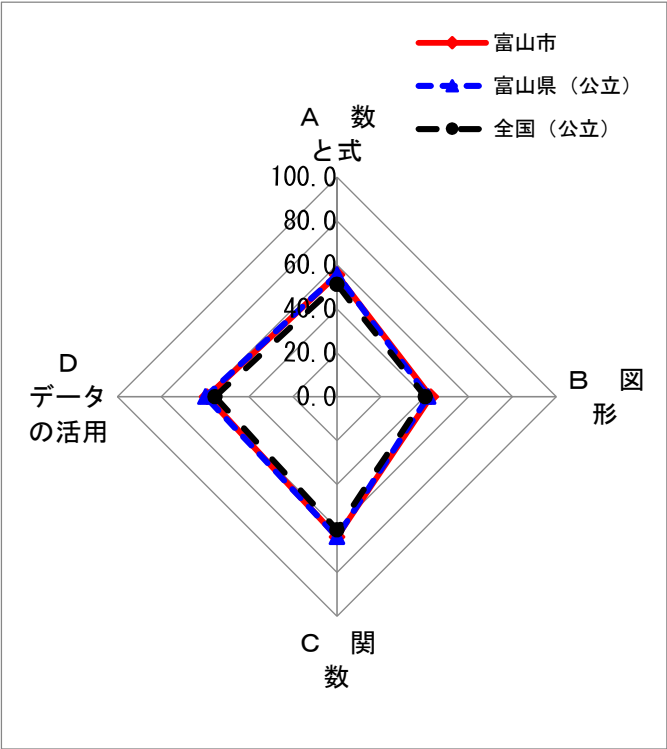
平均正答率（％）	富山市	富山県	全国
	56	56	52.5

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域	A 数と式	5	○ 55.5	55.6	51.1	
	B 図形	3	◎ 42.8	41.6	40.3	
	C 関数	4	◎ 63.9	63.8	60.7	
	D データの活用	4	○ 59.1	59.8	55.5	
評価の観点	知識・技能	11	◎ 67.2	67.2	63.1	
	思考・判断・表現	5	◎ 31.8	31.7	29.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	5	◎ 62.0	61.7	58.5	
	短答式	6	○ 71.5	71.7	67.0	
	記述式	5	◎ 31.8	31.7	29.3	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

＜結果の概要＞



- 平均正答率を全国と比較すると、3.5ポイント上回っており、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「A 数と式」で4.4ポイント全国を上回っている。
- 評価の観点ごとの平均正答率は、「知識・技能」で4.1ポイント全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は「B 図形」で42.8％であり、50％に満たない。
- 評価の観点「思考・判断・表現」の平均正答率は31.8％であり、50％に満たない。
- 問題形式のうち、「記述式」の問題の平均正答率は、31.8％であり、50％に満たない。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「C 関数」の平均正答率が63.9%と4つの区分の中では最も高い。一次関数について、式とグラフの特徴を関連づけて理解することができている。また、事象の中にある関数関係を見だし考察する場面において、数学的に表現・処理して問題を解決するなどの基本的な知識及び技能が身につけている。
- 区分「A 数と式」では、「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる」問題の正答率が90.9%であり、本調査の中で最も高い。正負の数を用いた計算に関する知識及び技能が身につけている。(問題6(1))
- 区分「A 数と式」の「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる」問題の正答率は全国と比較して8.2%高い。目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりするなど、基本的な計算力が身につけている。(問題2)
- 問題形式の中で「記述式」の5つの問題のうち4つは、無解答率が20%以上と高く、記述式の問題に対する苦手意識がみられる。問題解決的な学習や実生活における数学的な課題を取り入れ、小グループによる話し合いの場等で筋道を立てて考えたり自分の言葉で説明したりする活動を積極的に行うことが論理的に考える力や表現する力を育成することにつながる。
- 区分「B 図形」の「図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題は、正答率が26.1%と低く、無解答率が32.1%と最も高い。二つの正三角形によってできる図形の性質についての考察場面において、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ であることを証明し、合同な図形の対応する辺の長さが等しいことを根拠として、 $AQ = PB$ となる説明を完成させなければならない。三角形の合同条件のうち、どの条件を用いたら証明できるのかを考え、正三角形の辺や角の性質を関連させながら合同条件が成立する理由を数学的な表現を用いて説明する問題であった。様々な条件の問題を解いたり、考えたことを伝え合ったりする活動を充実させ、論理的に考察し表現する力を身につけていけるようにしたい。(問題9(1))
- 区分「C 関数」の「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題の正答率は19.3%であり、全ての問題の中で最も低い。日常や社会の事象を考察する場面では、事象の中にある数量の関係を関数として見だし、数学的に表現・処理して問題を解決し、得られた結果を説明する活動の機会を十分に設けることで数学的な思考力・表現力・判断力を身につけていけるように指導することが大切である。(問題8(2))

- 9 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。

桃子さんは次の図1のように点Cをとり、健太さんは次の図2のように線分ABの中点に点Cをとりました。

図1

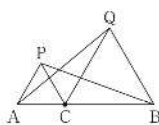
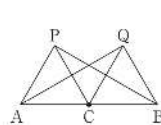
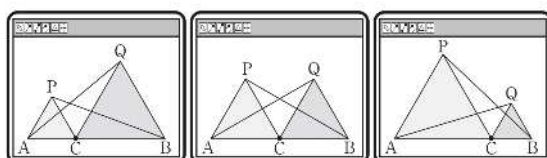


図2



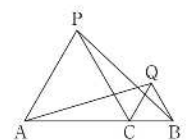
二人は図1と図2を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点Cを動かしながら調べました。



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ = PB$ になると予想しました。

桃子さんの予想した $AQ = PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ = PB$ になることの証明を完成しなさい。



証明

$\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において、

合同な図形の対応する辺は等しいから、
 $AQ = PB$

(●設問9(1) 正答率26.1%、無解答率32.1%)

2 児童生徒質問調査の結果から

肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの 全国比：R6本市と全国を比較したもの R5本市比：R5の本市の値と比較したもの ⑥は今年度新しく掲載した質問

自尊感情等

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 5 本市比	考 察
1	自分には、よいところがあると思う	小	81.3%	-2.8	-0.9	1 「自分には、よいところがあると思う」児童の割合は全国よりやや低く、生徒の割合はほぼ同じである。 <u>一人一人の個性を生かし、他者との協力や助け合いを通じて自己有用感を高めることのできる機会を多く設定することや、何事にも失敗を恐れず挑戦し、成長を実感できる環境を整えることが大切である。</u> 2 「将来の夢や目標をもっている」児童生徒の割合は全国よりやや低い。児童生徒が将来への見通しをもち、自己実現を図ることができるよう、 <u>キャリア教育の充実が大切</u> である。そのためにPTAや地域と連携した職業体験イベント、専門家による <u>ワークショップ体験の開催</u> 、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」等を活用し、自らの進路について考える機会を設ける方法が考えられる。
		中	84.6%	+1.3	+1.8	
2	将来の夢や目標をもっている	小	79.6%	-2.8	-1.2	
		中	63.4%	-2.9	+1.0	
3	人の役に立つ人間になりたい	小	95.2%	-0.7	-1.0	
		中	96.2%	+1.0	+0.9	

規範意識

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 5 本市比	考 察
4	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	96.8%	+0.1	-0.1	4 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合は昨年度とほぼ同じである。児童生徒が互いを尊重し、 <u>共感的な人間関係を築けるよう、学級活動や道徳科の授業等を充実させることが大切</u> である。また、 <u>児童生徒間で定期的な対話を促進すること</u> で、感情や経験を共有し、 <u>自他を尊重する気持ちを高め、いじめの防止について共に考える取り組み</u> を行うことが重要である。
		中	96.5%	+0.8	-0.4	

授業での活動

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 5 本市比	考 察
5	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	小	86.2%	-0.1	+4.2	5 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできている」児童の割合は昨年度よりやや高く、生徒の割合はかなり高い。 <u>イエナプラン的教育の要素を取り入れたり、児童生徒が主体的に問題解決型学習（PBL）や自由進度学習に取り組める授業を計画的に実践したりするなど、授業改善を図っている成果が出ている。</u> 6 児童生徒質問調査において、「週に3回以上PC・タブレットなどのICT機器を使用した」児童生徒の割合は、小・中ともに60%台である。一方、学校質問調査において「週に3回以上PC・タブレットなどのICT機器を活用した」と学校が回答した割合は90%を超えており、児童生徒と学校の認識に大きな乖離がある。今後も、 <u>一人1台端末を積極的に活用し、教師が児童生徒一人一人の学習の進捗や定着の状況を把握し、児童生徒の状況に応じて適切な支援を行う</u> ことが必要である。 7 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」児童の割合は昨年度とほぼ同じであり、生徒の割合はやや高い。引き続き、本市が重点事項に位置づけている「主体性のある子どもの育成」に向け、児童生徒が自ら解決したくなるテーマで学習を展開したり、失敗を受け入れられる集団づくりを進めたりすることが大切である。
		中	84.1%	-2.0	+10.9	
6	小学校5年生（中学校は1、2年生のとき）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	小	61.8%	+2.3	-6.7	
		中	60.4%	-4.0	+16.0	
7	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う	小	80.4%	-0.9	+2.0	
		中	83.5%	+1.3	+4.9	

家庭学習

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 5 本市比	考 察
8	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上勉強をしている	小	49.0%	-5.6	-6.7	8 「学校の授業時間以外に、普段1時間以上勉強している」児童の割合は全国より低く、生徒の割合はやや低いことから、家庭学習の習慣が定着していないことが示されている。 <u>授業における振り返りの時間を確実に確保し、自分の学習状況を自覚させることで、家庭学習の必要感が得られるような取り組みが必要である。</u>
		中	60.0%	-4.3	-0.9	
9 ◎	新聞を読んでいる（週に1～3回程度以上）	小	13.1%	+1.5	—	9 「新聞を読んでいる」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合はやや高い。知識量の増加、言語能力の向上につながることに、視野を広げ、批判的思考力を高める一助になることから、 <u>新聞記事を基にしたスピーチを取り入れるなど、興味のある内容を起点とし、新聞を身近に感じる意識を高める手立てが大切である。</u>
		中	10.4%	+3.1	—	
10	普段（月～金曜日）、30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っている	小	51.1%	+6.9	-4.1	10 「平日に30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICTを勉強のために使っている」児童の割合は全国より高いが、昨年度より低下し、生徒の割合は昨年度より高くなった。 <u>活用の効果的な実践例を共有するとともに、小中接続を意識した計画を立て、継続的に実践していくことが大切である。</u>
		中	37.0%	+0.6	+6.3	
11 ◎	自分で学び方を考え、工夫することができている	小	81.3%	+0.6	—	11 「自分で学び方を考え、工夫することができている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。自学自習ノートや一人1台端末に <u>毎日の学習内容を記録し、分からなかったことや疑問点を明示した上で、疑問点を整理し、解決策を考える習慣の定着を図る。定期的に過去の記録を見返し、自分の成長を確認することで、自己調整力を高めることが大切である。</u>
		中	78.2%	-0.4	—	

家庭での生活

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 5 本市比	考 察
12 ◎	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている	小	73.5	+2.4	—	12 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。 <u>児童会・生徒会が主体となり、ルールを守ろうとする取り組みを企画したり、保護者がよき手本を示したりすることが大切である。</u>
		中	74.6	+2.4	—	
13	朝食を毎日食べている	小	94.7%	+1.0	-0.1	13, 14 「朝食を毎日食べている」児童生徒の割合は昨年度と比べて低い傾向にある。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。規則正しい睡眠と毎日朝食をとる児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高い傾向にあることから、 <u>学校と家庭が連携し、児童生徒の基本的な生活習慣の定着を図ることが大切である。</u>
		中	91.7%	+0.5	-1.7	
14	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	小	82.0%	-0.9	+3.5	
		中	80.6%	-0.1	+0.6	

地域や社会に対する興味・関心

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 5 本市比	考 察
15	地域や社会をよくするために何かしたいと思っている	小	82.9%	-0.6	+1.1	15 「地域や社会をよくするために何かしたいと思っている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。児童生徒が <u>コミュニティ・スクールの委員や教職員と互いに意見を交わしたり、地域の清掃活動等に参加したりする活動が社会貢献につながることを実感できる場の設定が大切である。</u>

3 学校質問調査の結果から

肯定的な回答：「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」等を足したもの 全国比：令和6年度本市と全国を比較したもの

R5 本市比：本市令和6年度と令和5年度を比較したもの（令和5年度に調査項目に無かった質問はH30年度と比較したもの） ◎は今年度新しく掲載した質問

児童・生徒指導等

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R5 本市比	考 察
1	授業中の私語が少なく、落ち着いている	小	79.3%	-6.2	-10.0	1 肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに昨年度を下回った。学習規律の定着に課題がみられる一方、授業改善を進めている学校が多く、児童生徒同士が問題解決に向けて、自由に対話できる環境を設定していることも原因として考えられる。 <u>教師が教材研究や児童生徒の状況把握を入念に行い、一人一人に適切な支援ができるようにする必要がある。</u>
		中	96.2%	+2.4	-3.8	
2 ◎	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したい時に相談できる体制になっている	小	95.2%	+4.6	—	2 肯定的な回答の割合は、小・中学校ともに高く、児童生徒やその保護者のニーズに応じた教育相談体制が充実しているといえる。 <u>今後は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと教員の連携をより強化していくことが重要である。</u>
		中	100%	+5.0	—	

学校運営に関する状況

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R5 本市比	考 察
3	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を取り入れている	小	100%	+0.8	0	4,5 「PDCAサイクルの確立」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小・中学校ともに低い。また、「実践的な研修」については、中学校において昨年度より肯定的な回答が減っている。学校評価等により把握した現状に対する手立てを学校として明確化した上で確実に実践することや、その取り組みや結果について保護者に情報を提供しながら、さらなる改善を図るサイクルを構築することが重要である。 <u>実践的な研修については、そのサイクルの中で重点的に取り組むべき事項を学校全体で共有し、計画的に進める必要がある。</u>
		中	100%	+1.5	0	
4	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	小	90.5%	-6.6	-1.8	
		中	88.5%	-8.1	-11.5	
5	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている	小	96.8%	-1.7	-0.2	
		中	88.5%	-6.4	-3.8	

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R5 本市比	考 察
6	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる	小	85.7%	-2.5	-0.5	7,8 「学級活動」については中学校、「特別の教科 道徳」については小・中学校ともに、肯定的な回答の割合は、全国と比べ低い。学級での話し合い活動においては、多様な他者と協働する様々な活動の意義を理解できるように指導を工夫する必要がある。また、道徳においては、児童生徒一人一人が自己の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせて考えを深め、それを基に話し合う場面を設定することが重要である。
		中	88.5%	0	0	
7	学級活動の授業を通して今努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	小	92.6%	-0.5	+3.3	
		中	84.6%	-7.8	-7.7	
8	特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	小	90.5%	-5.5	-0.3	
		中	88.5%	-7.9	-7.7	

ICT の活用

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R5 本市比	考 察
9	一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で週3日以上活用した	小	98.4%	+5.2	+4.5	9, 10 小・中学校ともに「ICT機器を授業で活用した」について、肯定的な回答の割合は、昨年度と比べ改善がみられる。一方で、「自分の考えをまとめ、発表する場面で活用した」については、小・中学校ともにかなり低い。多様で大量の情報を伝えられることや、時間的・空間的な制約を超えること等の利点を学校全体で共有し、児童生徒に積極的な活用を促すことが重要である。
		中	92.3%	+1.6	+7.7	
10	自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3日以上活用した	小	36.5%	-18.6	-1.9	
		中	30.7%	-21.2	+3.8	

特別支援教育

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R5 本市比	考 察
11	特別支援教育について理解し、授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った	小	90.5%	-4.4	+4.3	11 肯定的な回答の割合は、全国と比べ、小学校でやや低く、中学校で低い。一人一人に応じた適切な支援や合理的配慮を行うために、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築する必要がある。
		中	84.6	-9.4	-15.4	

小学校教育と中学校教育の連携

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R5 本市比	考 察
12	近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	33.4%	-30.6	-3.6	12 肯定的な回答の割合は、全国と比べ小・中学校ともにかなり低い。校区の小・中学校で円滑な接続を図るために互いの学習を見合ったり、共同研修を行ったりするなど、課題と目標を共有し、共に取り組む機会を設けることが必要である。
		中	42.3%	-26.7	-15.4	

家庭や地域との連携

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R5 本市比	考 察
13	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった	小	95.2%	+6.3	-0.2	13 肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校は高く、中学校はほぼ同じである。引き続き、「地域とともにある学校」として、学校運営に地域の声を積極的に生かし、特色ある学校づくりを推進したい。
		中	84.7%	+0.6	-7.6	

調査結果の活用

質 問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R5 本市比	考 察
14	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	小	88.9%	-7.9	-4.9	14 肯定的な回答の割合は、全国と比べ、小・中学校ともに低い。全国学力・学習状況調査の結果から児童生徒の実態を捉え、学校全体で共有し、授業改善に生かすことが重要である。
		中	88.5%	-5.6	0	

V 今後の取り組み

1 調査結果の取り扱い

市教育委員会では、平成19年度から令和6年度までに実施された14回の「悉皆調査」と2回の「抽出調査」において、現状に即した教育に努めるため調査結果を公表してきた。

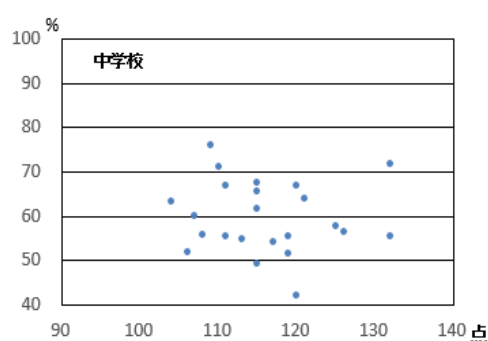
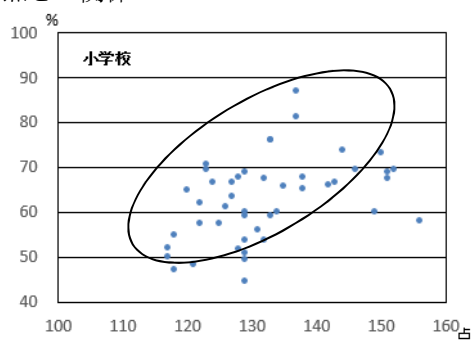
今年度の調査結果を分析することにより富山市における課題を明らかにし、今後の授業改善に向けた指導のポイントについて提案する。また、各学校では、本調査の結果を詳細に分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全教職員で共有することが大切である。分析するにあたり、数値のみにとらわれず、児童生徒の個々の学力状況や日ごろの学習の様子と学力調査等の分析結果を結びつけ、多面的、総合的に課題を明らかにして、日常の授業を改善していくものとする。

2 教科に関する調査と児童生徒質問調査及び学校質問調査の関連

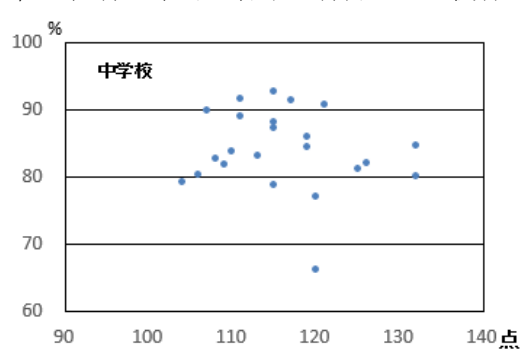
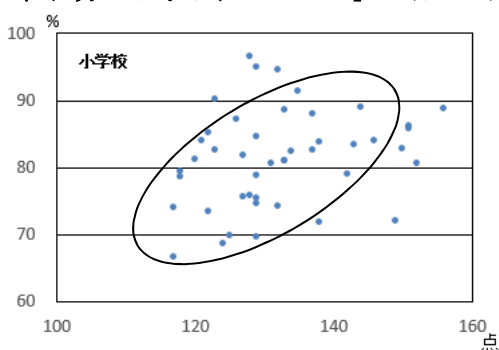
(1) 学校ごとの平均正答率の合計と児童生徒質問調査の回答状況との相関関係

① 「問題解決的な学習」に関すること

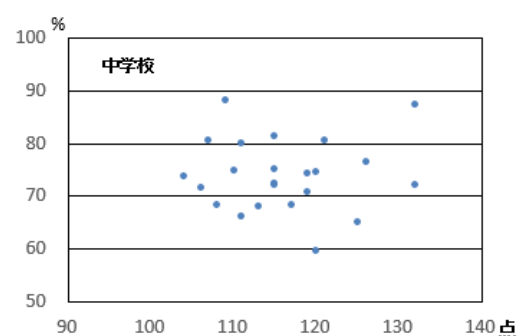
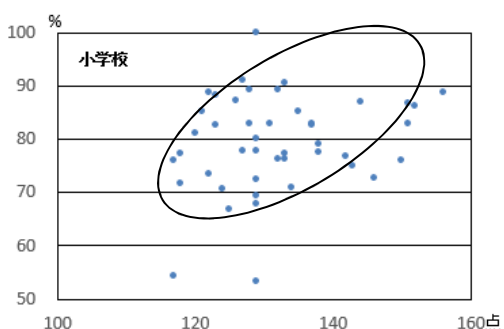
- 児童生徒質問調査 29 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



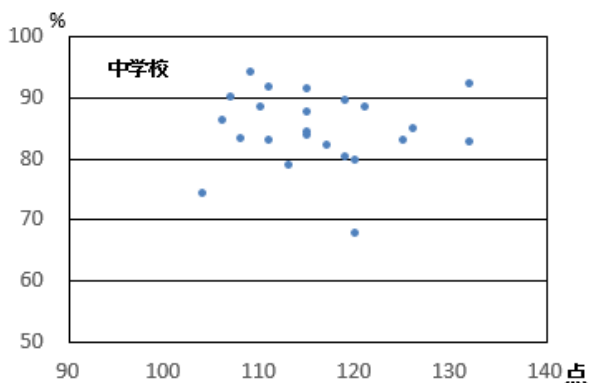
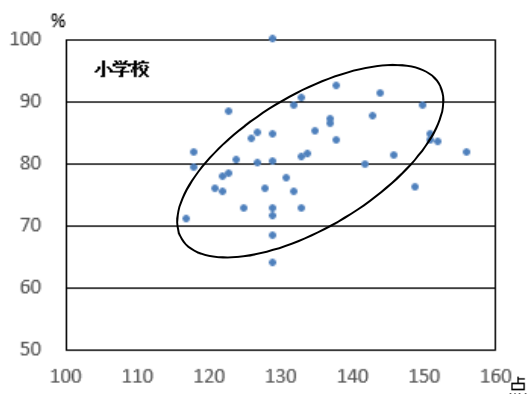
- 児童生徒質問調査 30 「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問調査 31 「前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

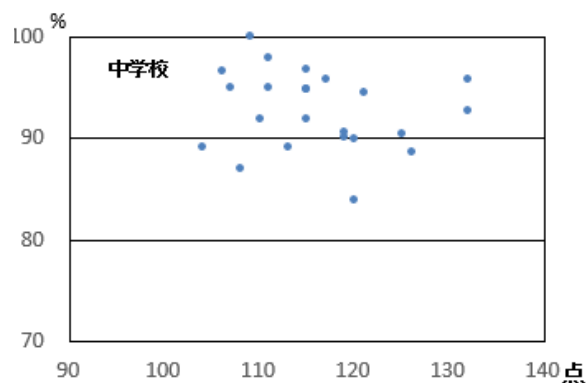
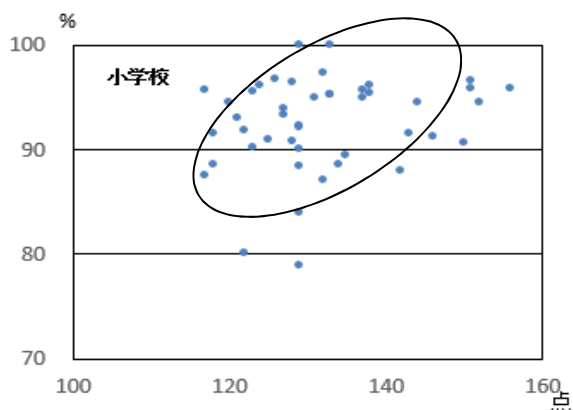


- 児童質問調査 38 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



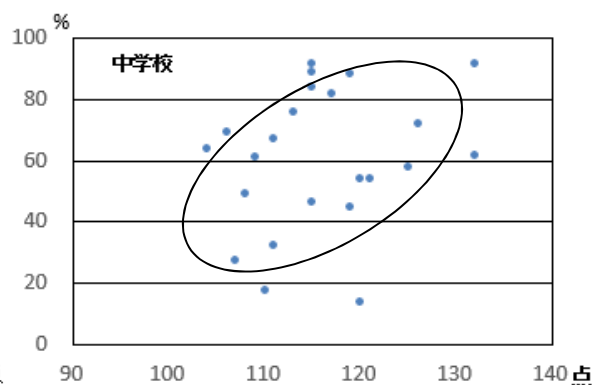
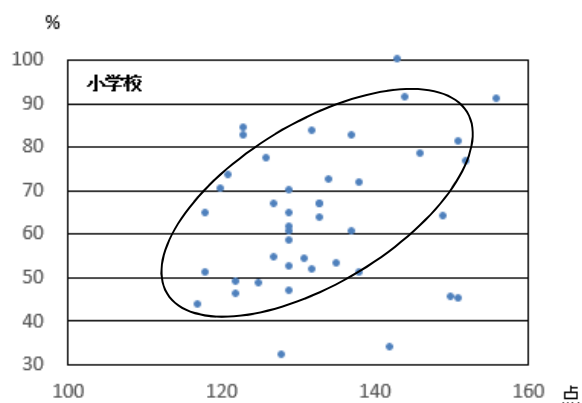
② 「非認知能力」に関すること

- 児童生徒質問調査 37 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



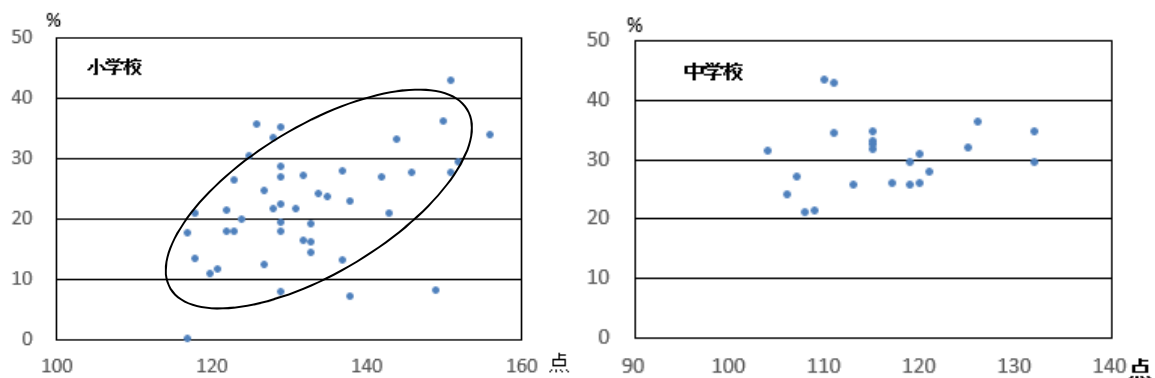
③ ICT の活用に関すること

- 児童生徒質問調査 27 「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を週 3 回以上使用した」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

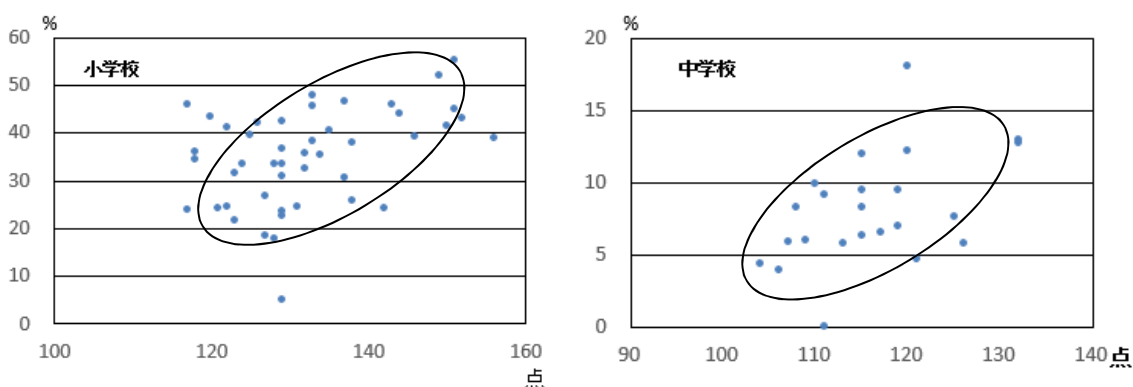


④ 「家庭での過ごし方」に関すること

- 児童生徒質問調査 5 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりのテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をする時間が1時間より少ない」と答えた生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問調査 6 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンでの SNS や動画視聴が 30 分より少ない」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



<データの取り扱いについて>

- ※ 児童生徒質問調査の分析は、データの正確性を優先し、児童生徒数が 20 名以上の学校を対象とした。
- ※ 相関係数が 0.2 以上の場合は、図に楕円の○を書き入れ、相関の特徴を表している。

以上の結果から、次の４点の内容が平均正答率に影響があると推察できた。

- ＜本市における授業改善に向けた指導の重点—令和６年度の全国学力・学習状況調査から—＞
- １ 「問題解決的な学習」の充実 —児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て—
 - ２ 「非認知能力の育成」 —粘り強く取り組む力、仲間と協働する力をはぐくむ—
 - ３ 授業でのＩＣＴ活用 —個や協働の各場面における端末の活用—
 - ４ 「家庭でのくらし」の充実 —学校の授業と家庭学習のリンク—

これらの４点については、これまでも各学校において取り組んできたが、今後も引き続き授業改善に向けた工夫を考え、継続して取り組んでいく必要がある。

- (2) 学校質問調査の各質問項目における平均正答率からみた２教科合計ポイントの平均
- 以下に、平均正答率と相関関係があった児童生徒質問調査の項目に関連した学校質問調査の一部の項目を挙げた。

質問事項	回答			
	上段：平均正答率からみた２教科合計ポイント平均 下段：回答学校数 ☐よく行った ☐どちらかといえば行った ☐あまり行っていない ☒全く行っていない ☒その他・無回答			
(30) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した	131点 16校	128 53	124 18	
(31) 児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した	134 24	125 59		
(32) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした	129 17	127 66		
(33) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	128 26	127 43	127 18	
(54・58) 教員がコンピュータなどの ICT 機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある	129 51	123 26	130 10	
(56・60) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなど ICT 機器を、授業で活用した	ほぼ毎日 130 62	週 3 回以上 123 22	週 1 回以上 126 21	月 1 回以上
(58・62) 児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を使用させている	132 10	128 21	127 34	126 21
(71・75) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	127 29	128 56		
(72・76) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行った	131 23	127 55	120 9	
(73・77) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かした	136 8	126 61	129 9	

※回答学校数が５校以下の項目の数字は省く。

0% 20% 40% 60% 80% 100%

3 授業改善に向けた指導の重点

児童生徒質問調査においては、学習活動に関して、

- 「各教科などで学んだことを生かして自分の考えをまとめたり、学んだことについて見直し、次の学習や実生活に生かしたりする児童生徒」
- 「特に小学校においては、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだり、友達や周りの人と互いに協力しながら取り組んだりする児童」と平均正答率に正の相関があるという結果がみられた。

いずれの教科においても記述式の問題において正答率が低かったが、全国的に見てもその傾向は続いており、本市においても課題である。

また、今回の調査における平均正答率と授業での ICT 機器の活用について、週 3 回以上使用した児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があるという結果がみられたが、その使用頻度は学校によって差が大きい。

以上のことから、以下の 4 点が本市における授業改善に向けた指導の重点として挙げられる。

- ＜本市における授業改善に向けた指導の重点—令和 6 年度の全国学力・学習状況調査から—＞
- 1 「問題解決的な学習」の充実 —児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て—
 - 2 「非認知能力の育成」 —課題の解決に向けて主体的に取り組む態度、仲間と協働する力をはぐくむ—
 - 3 授業での ICT 活用 —個や協働の各場面における端末の活用—
 - 4 「家庭でのくらし」の充実 —学校の授業と家庭学習のリンク—

令和 6 年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市における授業改善に向けた指導の重点について、指導のポイントを挙げる。

(1) 「問題解決的な学習」の充実—児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て—

教師がテーマを提示し、そのテーマを基に、児童生徒が自分の内側から湧いてくる問いに気づき、自ら解決したい問いを決め、解決のための計画を立て、情報収集を行い、必要な実践の後、結果を考察し発表するといった一連の活動に取り組む問題解決的な学習、いわゆる PBL（Project または Problem Based Learning）の充実を図ることが引き続き重要である。

富山市学校教育指導方針の P. 14「学習指導」における「問題解決的な学習の展開」では、次のように示している。

2 問題解決的な学習の展開

- (1) 子どもにとって必要感や切実感のある学習課題が設定できるような教材の提示方法等を工夫する。

実践例 小学校…学期に一単元程度、問題解決的な学習の充実を図る。

中学校…単元や 1 時間の学習の導入時に課題やその提示の仕方について工夫をする。

問題解決的な学習を授業で行うためには、教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実践が不可欠である。今回の質問調査において「各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行った」と答えた児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があったことから明らかである。これまでに実践されてきた、各教科と総合的な学習の時間、特別活動との連携、教科で取り扱う内容や行事の精選に取り組んでいる成果が表れていると考えられる。今後も、教師が各教科等の内容や系統を理解し、児童生徒の資質・能力の育成のために、カリキュラム・マネジメントを充実させることが大切である。

そして、問題解決的な学習を進める中で、情報を収集する際や情報を整理・分析する際に、児童生徒が自分の考えを構築するための具体的な方法や道筋を、教師が提示し選択できるようにしたり、相談・助言したりすることが有効である。「今、どこまでできているのか」「何か困っていることはないか」「どうしていこうと思っているのか」など、教師が児童生徒の学習状況をとらえてニーズに合わせて個別の指導や支援を行い、自分の学習の状況をメタ認知し自覚的に安心して学習できる環境をつくることも大切である。

以上のように、児童生徒の実態をとらえて計画を立て、次のような適切な手立てを継続して行うことが、児童生徒の力を高めていくことを改めて確認したい。

① 児童生徒が自ら解決したい問いを決めるための手立て

(ア)「疑問を感じる種をまく」

- ・様々な場面において「どうして?」「なぜ?」と疑問をもつことができるよう、教師が日ごろから「はてな」を投げかけ、疑問から問いを生み出す。

(イ)「解決したくなるテーマで学習を展開する」

- ・児童生徒の実態に合わせ、広がりをもてるテーマを選定する。
- ・切実感がある内容を設定する。

② 児童生徒が解決のために試行錯誤を繰り返すための手立て

(ア)「失敗を受け入れられる集団づくり」

児童生徒が失敗を恐れずに挑戦するには、自己肯定感から自己有用感につながる背景が重要である。指導方針 P. 13 学年・学級経営「主体性のある子どもを育成する学年・学級経営」における重点を確認したい。

(イ)「『自分が動けば何かが変わる』経験をする」

児童生徒を「持続可能な社会の創り手」へと育て上げるために、新しいものを創り上げたり今まであったものごとを変化させたりする経験が必要である。知識としてだけでなく、参画してみても失敗も成功もあるような、実感を伴う体験が望ましい。指導方針 P. 26 から P. 51 の例を参考にしてもらいたい。

③ 児童生徒が結果を考察し表現するための手立て

指導方針 P. 5 のように、問題解決的な学習では「まとめ・表現する」場面を設け、また次の問題解決的な活動へつなげていくことが重要である。これは、今回の質問調査で「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめ

る活動を行った」と答えた児童生徒の平均正答率に正の相関がみられたことから明らかである。

それぞれの児童生徒が「何が分かったのか」を学んだ過程も含めてまとめ、「何を伝えたいか」を考える場を保障し、その内容や技能に合ったツール（ノート、Chromebook、ホワイトボード等）や方法（文章、図絵、プレゼンテーション等）を児童生徒自身が選ぶことができるような工夫も有効である。

教師から一方的に与えるのではなく、児童生徒が自分なりの根拠をもって学びのまとめ方を自己決定して表現できるようにしていきたい。

(2) 「非認知能力」の育成

一課題の解決に向けて主体的に取り組む態度、仲間と協働する力を育む一

非認知能力は、幼児期後半から、「自分で決定したことを実行する」「成功体験や失敗体験を積み重ねる」「仲間と協働的に活動する」などを通して獲得されていくと言われる。教師は、授業（単元）を構想する際、「この授業（単元）において、児童生徒はこのようなことを楽しんで取り組んでいくだろう」「このようなことを児童生徒が自分で決定できるようにすれば、より主体的に進めていくのではないか」「このような教材を児童生徒に提示すればこのような問題が生まれるだろう」「仲間と共に学ぶ必然性はどこに生まれるだろう」など、児童生徒の具体的な姿を想定し、支援や手立て、学習環境を工夫しておくことが大切である。教師がこのように授業を構想することによって、児童生徒の発想や可能性をつぶさを感じられるようになり、教師の予想を超える児童生徒の発言や姿にも共感したり、共に考えたりできるようになる。

また、児童生徒は、体験したことを整理、分析し、これまで経験したこと、学んだことを振り返り、比較していく中で学びを深めていく。その過程では、対話することを大切にしたい。体験をとおして、「どのようなことを感じたのか」、「どのようなことを考えるようになったのか」などを、児童生徒同士、児童生徒と教師等で対話をしていく中で、児童生徒が自分なりの言葉で表現し、その言葉を仲間や教師がよく聞き、受け止めたり、認めたりする。そのようなかわりの中で、非認知能力が育まれていくことが期待できると考える。

(3) 授業でのICT活用 一個や協働の各場面における端末の活用一

「富山市GIGAスクール構想推進ロードマップ」において、令和6年度は個別最適・協働的な学びの充実を支える文房具の一つとして端末を効果的に使うことを目標としている。学校質問調査において、「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日授業で活用した」「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させている」と答えた学校の児童生徒の平均正答率が高かったことから、児童生徒が授業の中で目的に応じて端末を活用していく場を保障することが、児童生徒の学力向上につながっていくと考えられる。

また、先に述べた問題解決的な学習に取り組む中で、児童生徒が情報を収集したり、調べたことを整理・分析したりするなど様々な学習場面において、学び方として端末の有効な活用を身につけ、児童生徒自らが判断し、必要に応じて端末を活用していくことができるよう指導することが不可欠である。

I C T活用能力は使用頻度によって左右される。小学校間の差、小学校・中学校間の差が生じないように、引き続き富山市全体で端末活用の推進に取り組む必要がある。

(4) 「家庭でのくらし」の充実 ー学校の授業と家庭学習のリンクー

学校の授業と家庭学習に連続性をもたせることで、更なる学力の向上が期待できると考えられる。その際、学校と家庭が連携し、児童生徒の興味関心をとらえて、課題意識をもたせる働きかけを行うことが大切である。

児童生徒質問調査において、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていますか」と答えた学校の児童生徒の正答率が高かった。このことから、授業における、「振り返り」の時間を確保することが有効であると考え。指導方針 電子データ1－4には、学習のま



とめと振り返りについてポイントを挙げてある。学習内容を確認する「まとめ」とは異なり、「振り返り」は自分自身の学びを客観し、これまでの経験や学習と関連づけながら意味付けていくものである。「振り返り」によって新たな疑問や次への見通しをもつことができる。その中の視点として「分かったこと」「新たな疑問」「更に考えたいこと」「家庭で考えたいこと」などを示すといった工夫をすることで、家庭学習への連続性につながるものと考え。

また、学校質問調査において、「家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行った」と答えた学校の児童生徒の平均正答率が高かったことから、児童生徒自らが家庭学習で取り組む課題を決定し、責任をもって取り組めるようにするとともに、自分に合った学び方の選択を保障することが、学力につながると考えられる。

以上のようなことを意識することにより、児童生徒自身が学ぶことの意義を味わうことができ、結果として学力の向上につながっていくと考えられる。各学校の実態に応じ、家庭学習の充実に向けての方策を考えていくことが必要である。

授業改善に向けた指導の重点を述べてきたが、平均正答率が高い学校に共通しているのは、研修会等で学校の課題を的確にとらえて解決策を教職員が共通理解し、継続して取り組んでいることである。このような学校の雰囲気づくりが児童生徒の学力向上につながると考えられる。

〈資料〉

- 1 全国学力・学習状況調査
富山市と全国、県との平均正答率の比較
- 2 小学校 6 年生 設問別結果一覧
- 3 中学校 3 年生 設問別結果一覧
- 4 児童生徒質問調査
- 5 学校質問調査

1 全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率の比較 (H19～R6)

- ・ H19、20、21、25、26、27、28、29、30、31、R3、R4、R5、R6：対象学年全員参加方式で実施。
- ・ H22、24：抽出方式で実施。（抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。）
- ・ H23、R2：未実施。

※ 平成28年度より、整数値で公表(平成29年度からは、文部科学省から届く市・県の調査結果が整数値)

【小学校6年生】

		国語 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	79	75
	市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4	4
	市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	1	1
	富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	78	74
	県一全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	3	3
	全 国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	75	71

国語 B											
H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62	62	60	
4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4	4	5	
0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1	2	2	
66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61	60	58	
4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3	2	3	
62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58	58	55	

国語					
H31	R3	R4	R5	R6	
70	66	67	69	68	
6	1	1	2	0	
2	-1	0	0	-1	
68	67	67	69	69	
4	2	1	2	1	
64	65	66	67	68	

		算数 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	84	68
	市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	5	4
	市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	2	2
	富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	82	66
	県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	3	2
	全 国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	79	64

算数 B											
H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53	49	57	
3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6	3	5	
0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2	2	2	
66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51	47	55	
2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4	1	3	
63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47	46	52	

算数					
H31	R3	R4	R5	R6	
70	73	66	65	64	
3	3	3	2	1	
1	0	0	0	0	
69	73	66	65	64	
2	3	3	2	1	
67	70	63	63	63	

【中学校3年生】

		国語 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	80	78
	市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	3	2
	市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	0	0
	富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	80	78
	県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	3	2
	全 国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	77	76

国語 B											
H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71	76	63	
4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4	4	2	
-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0	1	0	
77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71	75	63	
5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4	3	2	
72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8	67	72	61	

国語					
H31	R3	R4	R5	R6	
76	66	70	71	60	
3	1	1	1	2	
0	1	0	0	0	
76	65	70	71	60	
3	0	1	1	2	
73	65	69	70	58	

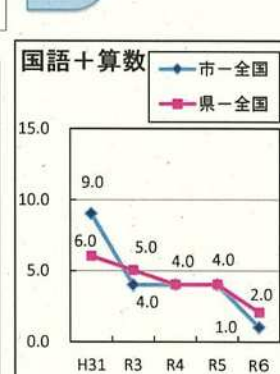
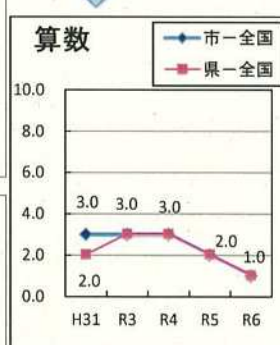
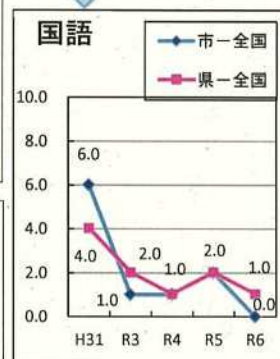
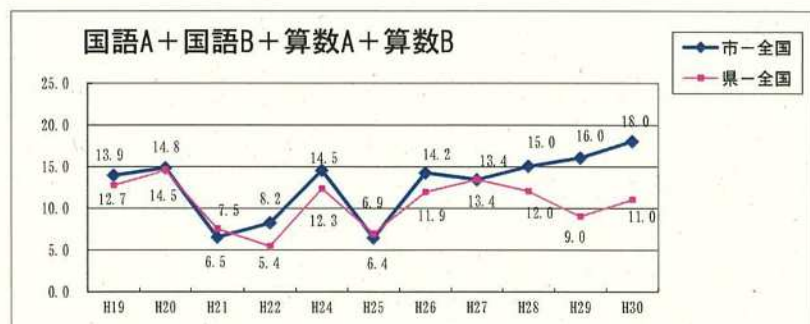
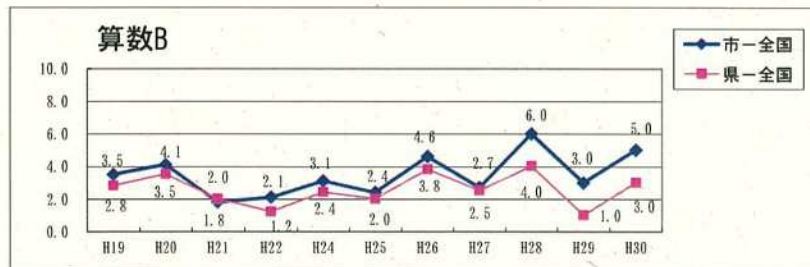
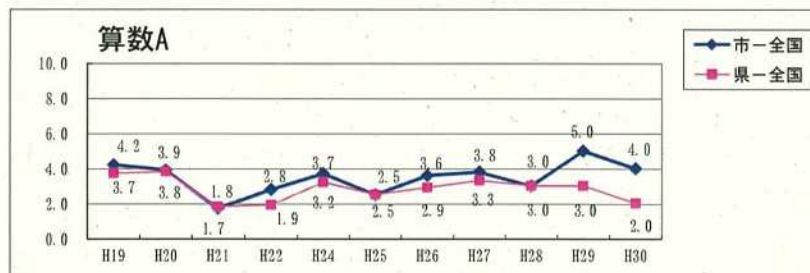
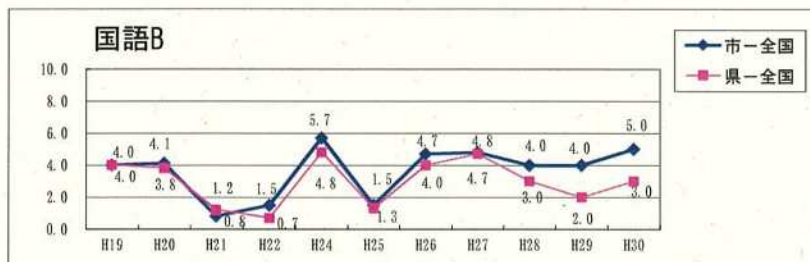
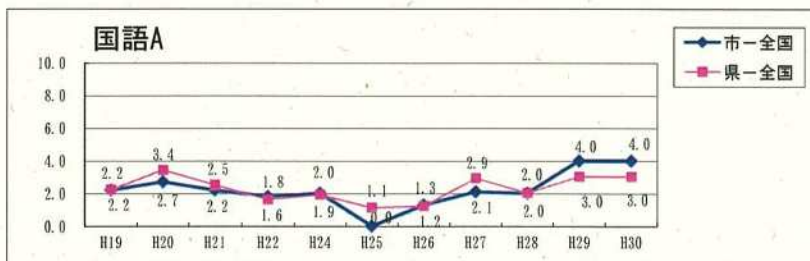
		数学 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	68	71
	市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	3	5
	市一県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	0	1
	富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	68	70
	県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	3	4
	全 国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	65	66

数学 B											
H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49	51	51	
4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5	3	4	
-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0	1	0	
65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5	49	50	51	
5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5	2	4	
60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44	48	47	

数学					
H31	R3	R4	R5	R6	
65	59	55	54	56	
5	2	4	3	3	
0	0	0	0	0	
65	59	55	54	56	
5	2	4	3	3	
60	57	51	51	53	

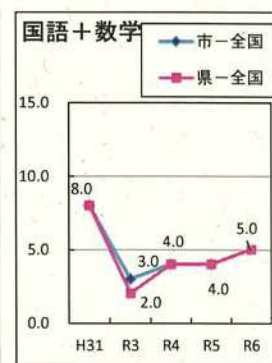
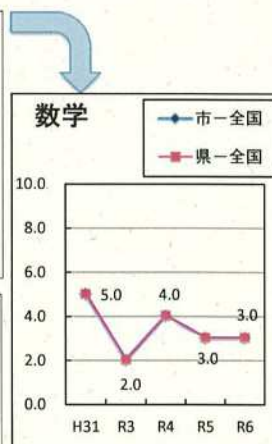
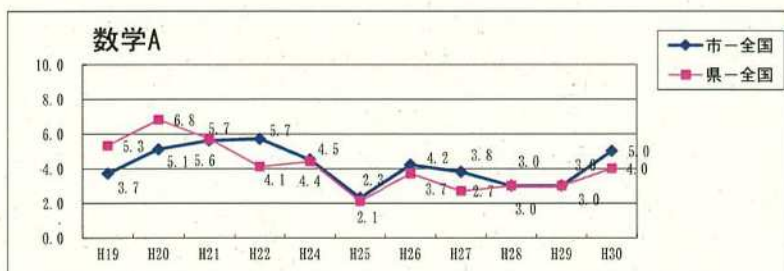
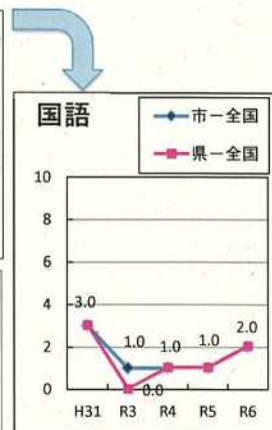
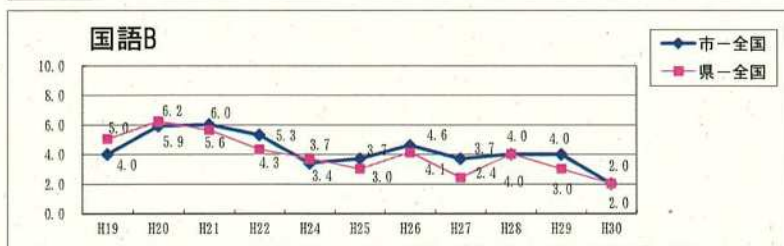
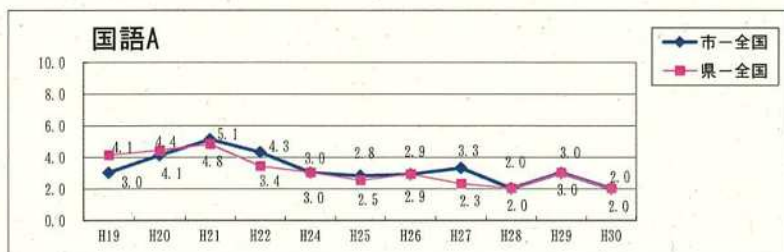
【小学校 6 年生】

※全国の平均正答率との差（％）



【中学校3年生】

※全国の平均正答率との差（％）



2 小学校6年生 設問別結果一覧

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
			(1)言葉の事項や使い方に	(2)情報の扱い方に								
1ー	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中からの話題を決め、伝え合う内容を確認することができるかをみる				5・6ア				○	○	富山市65.5 33.90.6 全国(公立)62.5 36.80.7 0%20%40%60%80%100%
1二(1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を考えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかをみる	5・6イ					○			○	富山市77.0 22.40.6 全国(公立)75.9 23.50.6 0%20%40%60%80%100%
1二(2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかをみる				5・6ウ			○		○	富山市57.8 41.50.7 全国(公立)52.9 46.40.7 0%20%40%60%80%100%
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を確認することができるかをみる				5・6ア				○	○	富山市67.6 31.41.0 全国(公立)63.8 35.30.9 0%20%40%60%80%100%
2一(1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかをみる				5・6ア				○	○	富山市82.3 16.90.8 全国(公立)80.3 18.80.9 0%20%40%60%80%100%
2一(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる	5・6イ					○			○	富山市88.1 11.20.7 全国(公立)86.9 12.20.9 0%20%40%60%80%100%
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる				5・6ウ				○	○	富山市58.5 35.56.0 全国(公立)56.6 38.54.9 0%20%40%60%80%100%
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる	5・6エ					○			○	富山市42.6 42.714.7 全国(公立)43.4 43.413.2 0%20%40%60%80%100%
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる	5・6エ					○			○	富山市73.7 16.89.5 全国(公立)76.0 16.08.0 0%20%40%60%80%100%
3ー	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を確認することができるかをみる	3・4カ					○			○	富山市60.6 38.11.3 全国(公立)62.3 35.72.0 0%20%40%60%80%100%

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式					
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式		記述式	
			(1)言葉の特徴や使い方に關する事項	(2)情報の扱い方に關する事項	(3)我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと								B 書くこと
													正答率 誤答率 無解答率	
3 二 (1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話しかけていると考えられるか、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などに基に捉えることができるかどうかをみる						5・6 イ		○		○		富山市 68.6 29.4 2.0 全国(公立) 66.9 30.5 2.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3 二 (2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したのとして、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる						5・6 エ		○		○		富山市 72.7 25.2 2.1 全国(公立) 72.5 24.6 2.9 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3 三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる						5・6 エ		○			○	富山市 66.6 15.6 17.8 全国(公立) 72.6 14.8 12.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3 四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることにつながることに気付くことができるかどうかをみる			5・6 オ				○			○		富山市 75.7 18.0 6.3 全国(公立) 74.6 17.8 7.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
														正答率 誤答率 無解答率
1 (1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	2(2) ア(エ)					○			○			富山市 62.1 37.6 0.3 全国(公立) 62.1 37.7 0.2
1 (2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を口数としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3(7) ア(ア)					○			○			富山市 89.8 9.8 0.4 全国(公立) 88.5 11.2 0.3
2 (1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(3) イ(ア)					○				○		富山市 57.0 39.0 4.0 全国(公立) 56.9 39.7 3.4
2 (2)	除数が1より10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5(3) ア(ア)					○			○			富山市 69.4 29.7 0.9 全国(公立) 69.1 29.6 1.3
3 (1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	4(2) ア(ア) ア(ウ)					○			○			富山市 88.0 11.3 0.7 全国(公立) 85.5 13.9 0.6
3 (2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	5(1) ア(エ)					○			○			富山市 74.2 25.0 0.8 全国(公立) 71.3 27.9 0.8
3 (3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さとは立方体の一方の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3(1) ア(ウ) イ(ア) 5(4) ア(イ) イ(ア)					○				○		富山市 34.8 53.5 11.7 全国(公立) 36.5 53.7 9.8
3 (4)	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	5(2) ア(ア) イ(ア)					○					○	富山市 68.5 29.3 2.2 全国(公立) 72.0 26.2 1.8
4 (1)	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	5(3) ア(イ)					○				○		富山市 69.4 26.9 3.7 全国(公立) 70.1 26.8 3.1
4 (2)	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる				5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)		○				○		富山市 71.2 25.5 3.3 全国(公立) 70.0 26.7 3.3

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
														正答率 誤答率 無解答率
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる				5(2) ア(ア) イ(ア)			○				○	富山市 29.3 68.3 2.4 全国(公立) 31.0 66.6 2.4
4 (4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる				5(2) ア(ア)		○				○		富山市 54.4 40.8 4.8 全国(公立) 54.1 41.3 4.6
5 (1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる					5(1) ア(ア)	○				○		富山市 81.4 16.6 2.0 全国(公立) 80.8 17.4 1.8
5 (2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)	○				○		富山市 75.3 20.7 4.0 全国(公立) 73.3 22.8 3.9
5 (3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) イ(ア) 4(1) ア(イ)	○					○	富山市 43.7 41.4 14.9 全国(公立) 44.0 43.4 12.6
5 (4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	2(1) イ(ア)				3(1) ア(ア)	○				○		富山市 52.3 44.3 3.4 全国(公立) 49.3 46.7 4.0

3 中学校3年生 設問別結果一覧

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			知識及び技能		思考力・判断力・表現力等							
			(1) 言葉の特性や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1一	話合いの中の発言について説明したのとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる				1エ			○	○		正答率 誤答率 無解答率
1二	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように話すことができるかどうかをみる				2ウ			○	○		正答率 誤答率 無解答率
1三	話合いの中の発言について説明したのとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1ア						○	○		正答率 誤答率 無解答率
1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1オ			○		○	正答率 誤答率 無解答率
2一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる						2ウ	○	○		正答率 誤答率 無解答率
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2ア						○	○		正答率 誤答率 無解答率
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる						2ア	○	○		正答率 誤答率 無解答率
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる						1ウ	○		○	正答率 誤答率 無解答率
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができかどうかをみる						1ア	○	○		正答率 誤答率 無解答率

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率 誤答率 無解答率
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
			(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと							
3二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	2才						○			○			富山市 55.4 43.5 1.1 全国(公立) 53.8 45.2 1.0
3三	漢字を書く(みちたりた)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○			○			富山市 68.9 22.9 8.2 全国(公立) 68.8 21.0 10.2
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる					2ウ		○				○		富山市 51.8 33.1 15.1 全国(公立) 49.3 35.7 15.0
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1才						○			○			富山市 59.9 38.3 1.8 全国(公立) 54.9 43.3 1.8
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる						1イ	○			○			富山市 51.3 45.8 2.9 全国(公立) 48.3 48.3 3.4
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる			1エ(イ)				○			○			富山市 78.9 18.9 2.2 全国(公立) 75.6 22.1 2.3

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
													正答率 誤答率 無解答率
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2 (1) ア(イ)				○			○			富山市 41.5 46.8 11.7 全国(公立) 34.8 50.9 14.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
2	等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	2 (1) ア(エ)				○			○			富山市 60.7 31.7 7.6 全国(公立) 52.5 37.8 9.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる	1 (1) ア(イ)				○			○			富山市 71.1 28.4 0.5 全国(公立) 68.3 31.4 0.3 0% 20% 40% 60% 80% 100%
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる	2 (1) ア(ア)				○			○			富山市 71.3 27.9 0.8 全国(公立) 65.3 34.0 0.7 0% 20% 40% 60% 80% 100%
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる	2 (2) ア(イ)				○			○			富山市 74.7 22.1 3.2 全国(公立) 73.1 22.7 4.2 0% 20% 40% 60% 80% 100%
6 (1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、－5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	1 (1) ア(イ)				○			○			富山市 90.9 7.3 1.8 全国(公立) 90.2 7.3 2.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%
6 (2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ(イ)				○			○			富山市 42.0 35.5 22.5 全国(公立) 35.9 40.6 23.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%
6 (3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ(イ)				○			○			富山市 42.5 28.2 29.3 全国(公立) 41.8 28.6 29.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
7 (1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる	小6 (1) ア(ア)				○			○			富山市 80.8 15.3 3.9 全国(公立) 74.3 19.9 5.8 0% 20% 40% 60% 80% 100%

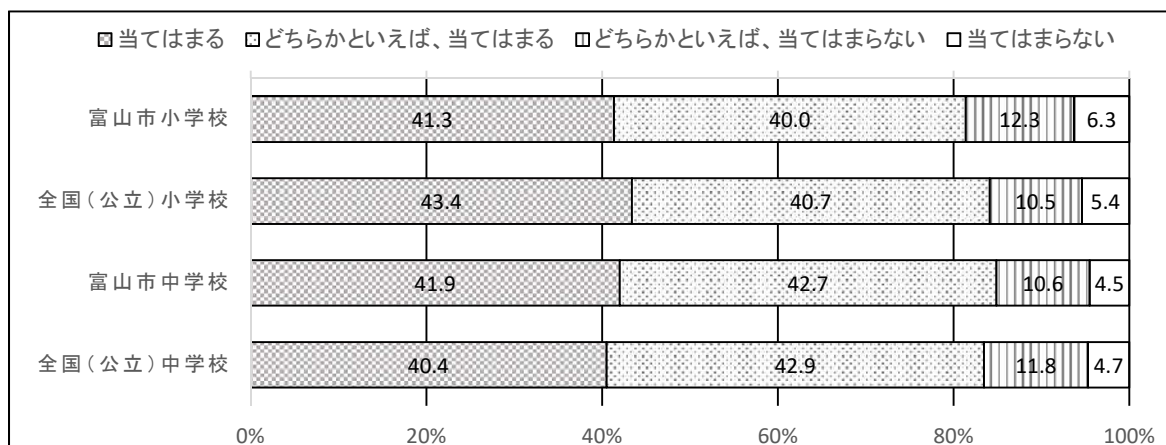
【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
													正答率 誤答率 無解答率
7 (2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(1) イ(ア)		○				○	富山市 29.1 44.2 26.7 全国(公立) 25.9 44.7 29.4 0% 20% 40% 60% 80% 100%
7 (3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる				2(1) ア(ア)	○			○			富山市 51.8 47.4 0.8 全国(公立) 48.5 50.6 0.9 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8 (1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値を表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) ア(ア)	○			○			富山市 84.8 14.5 0.7 全国(公立) 83.4 15.8 0.8 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8 (2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				2(1) イ(イ)		○				○	富山市 19.3 62.3 18.4 全国(公立) 17.1 66.5 16.4 0% 20% 40% 60% 80% 100%
8 (3)	結衣さんがかいたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) ア(ア)	○			○			富山市 80.2 16.7 3.1 全国(公立) 76.9 19.3 3.8 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9 (1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる				2(2) イ(イ)		○				○	富山市 26.1 41.8 32.1 全国(公立) 25.8 40.6 33.6 0% 20% 40% 60% 80% 100%
9 (2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる				2(2) ア(イ) イ(ア)	○			○			富山市 31.1 64.7 4.2 全国(公立) 26.7 68.8 4.5 0% 20% 40% 60% 80% 100%

4 児童生徒質問調査 （★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問）

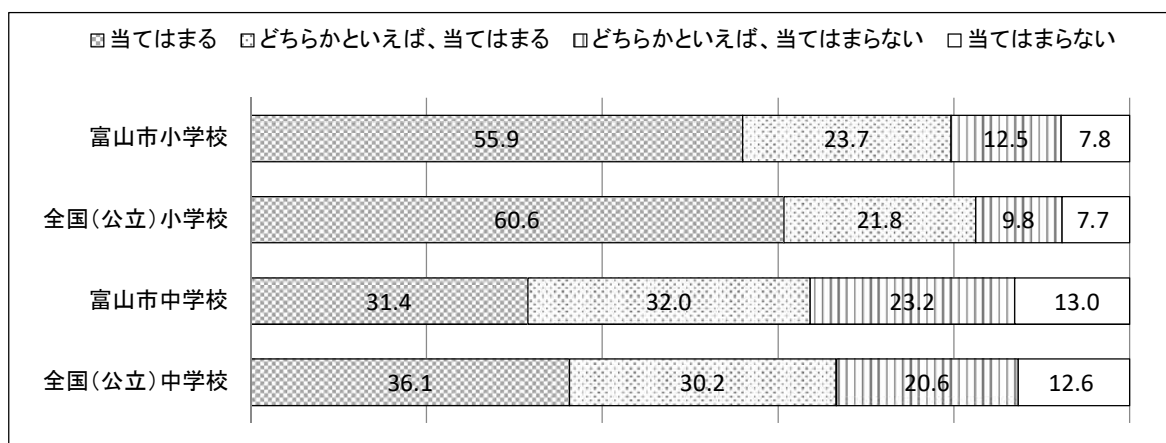
【自尊心】

1 自分には、よいところがあると思いますか。



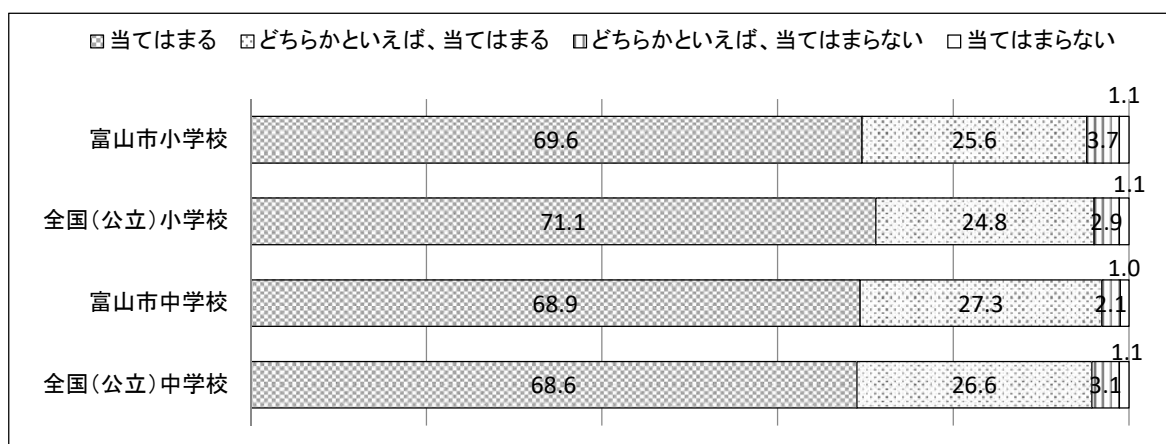
※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童の割合は全国よりやや低く、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

2 将来の夢や目標を持っていますか。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」児童生徒の割合は全国よりやや低い。

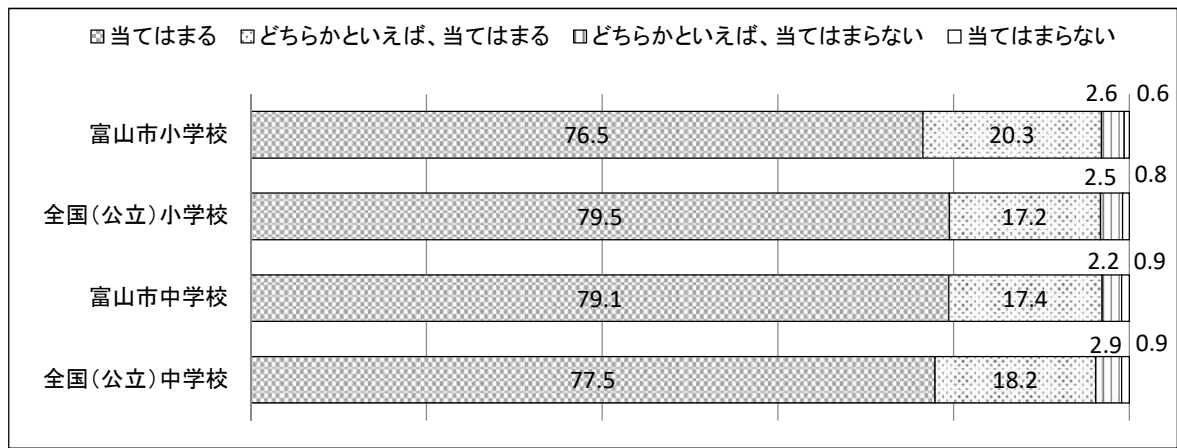
3 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



※ 「人の役に立つ人間になりたいと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

【規範意識】

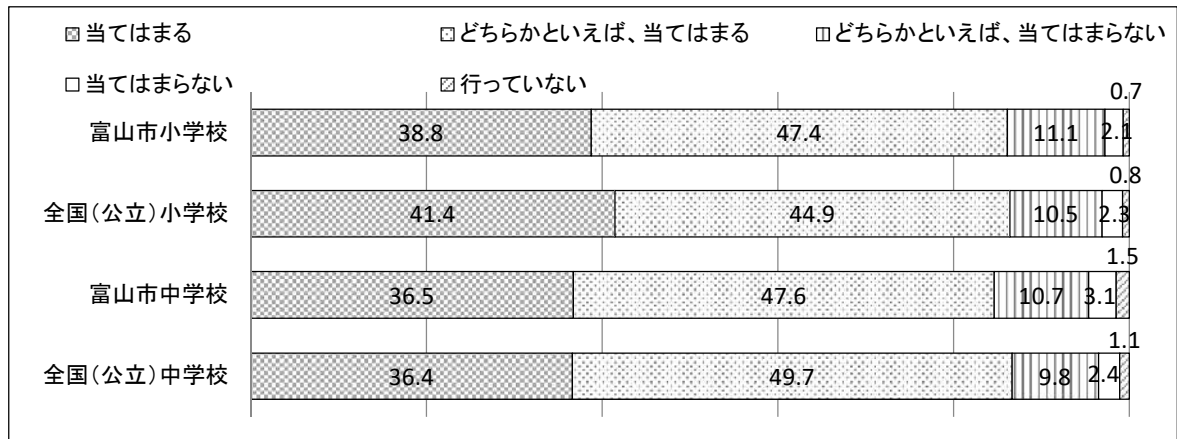
4 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



※ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

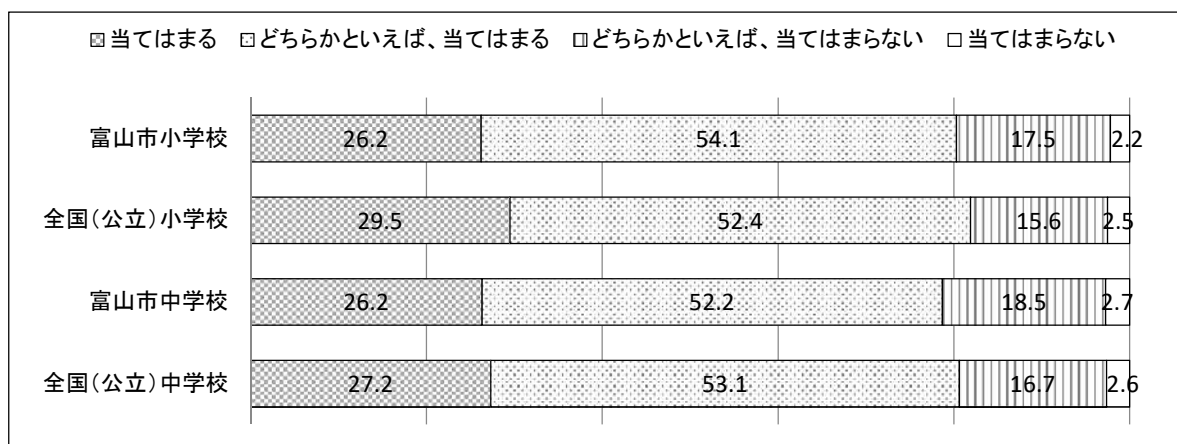
【授業での活動】

5 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。



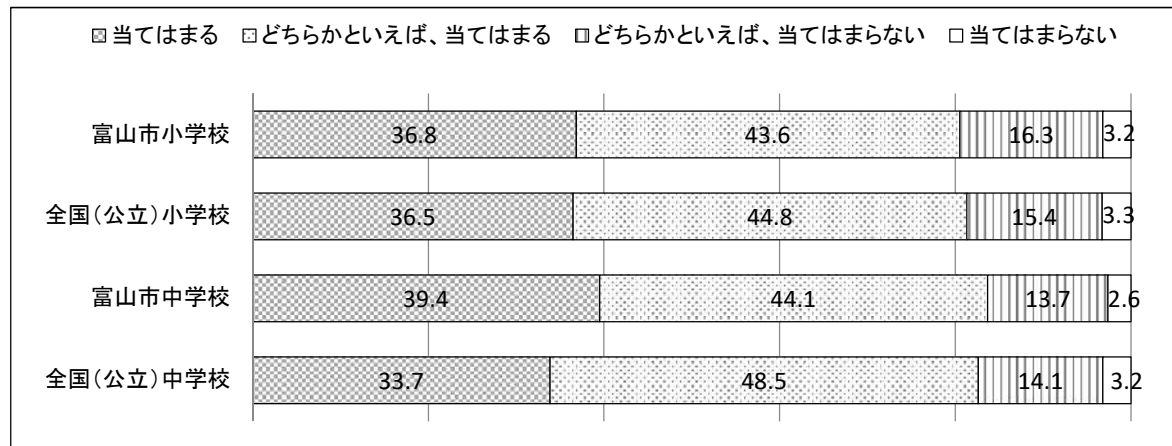
※ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う」「どちらかといえば思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

6 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



※ 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

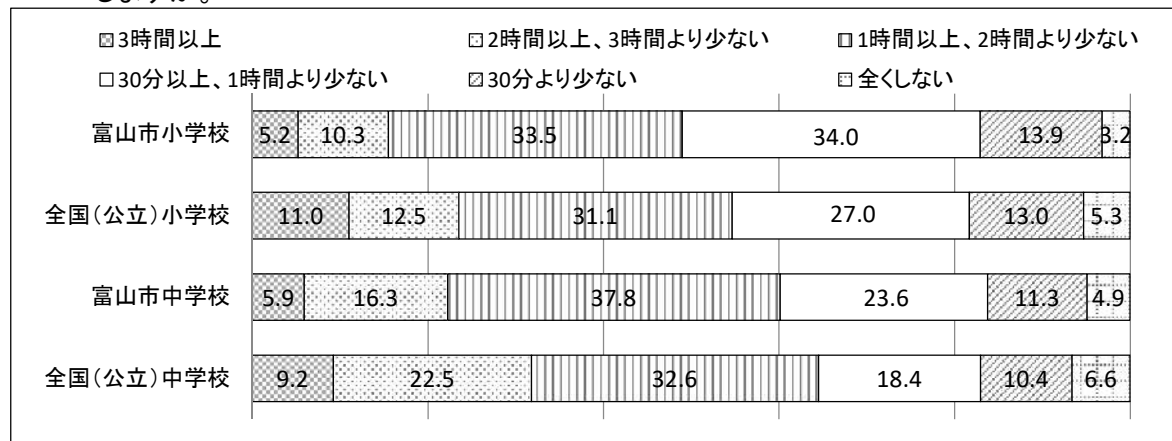
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



※ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

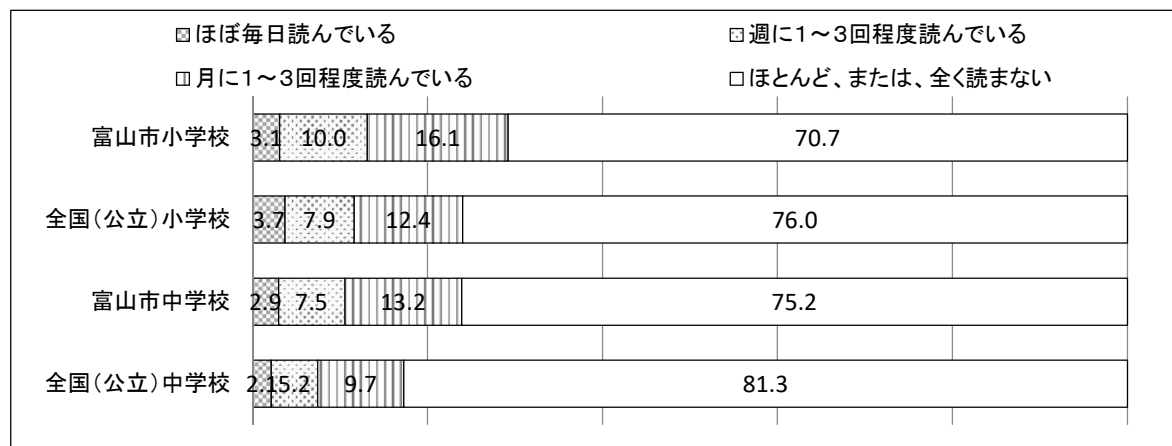
【家庭学習】

8 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



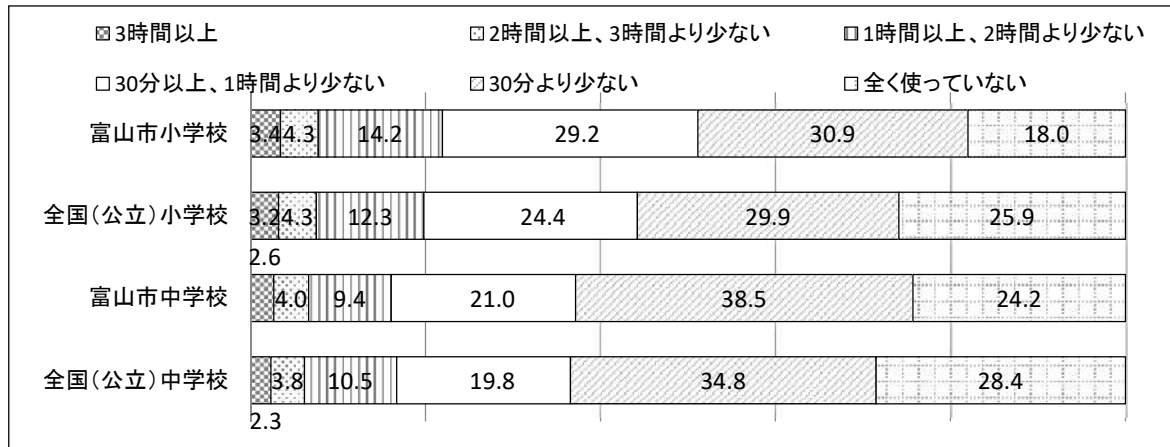
※ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上勉強をしている」児童の割合は全国より低く、生徒の割合は全国よりやや低い。

9 ★新聞を読んでいるか。



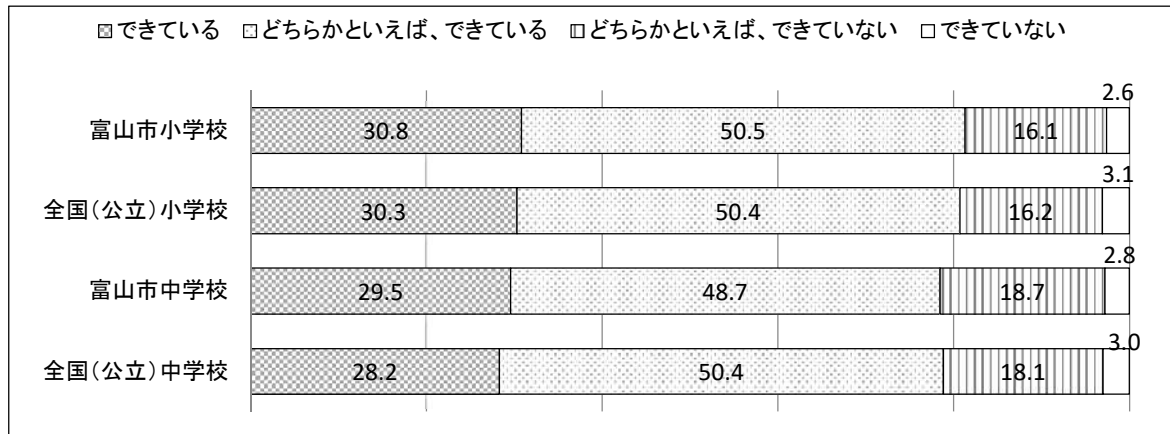
※ 「新聞を週に1～3回程度以上読んでいる」児童の割合は全国とほぼ同じで、生徒の割合は全国よりやや高い。

10 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っていますか。



※ 「普段(月～金曜日)、30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っている」児童の割合は全国より高く、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

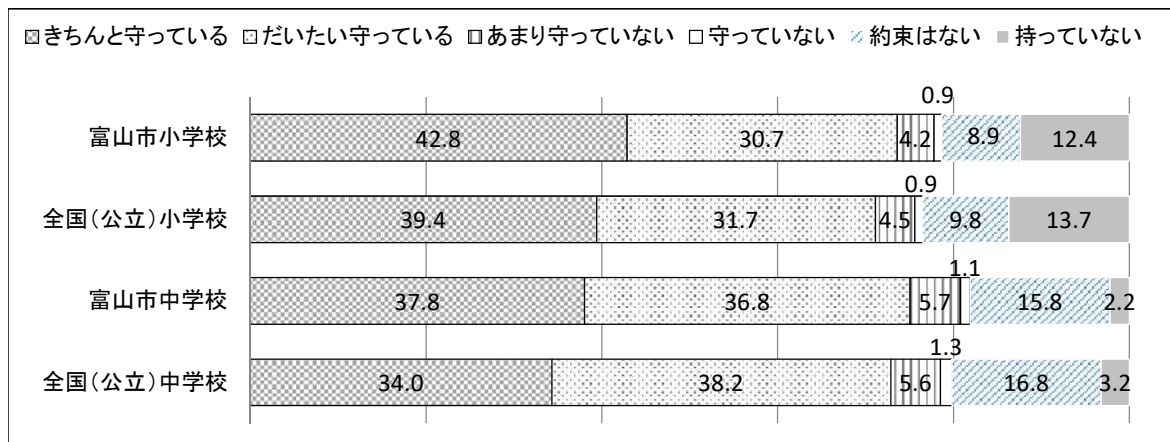
11 ★分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができるか。



※ 「自分で学び方を考え、工夫することができる」「どちらかといえば、できている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

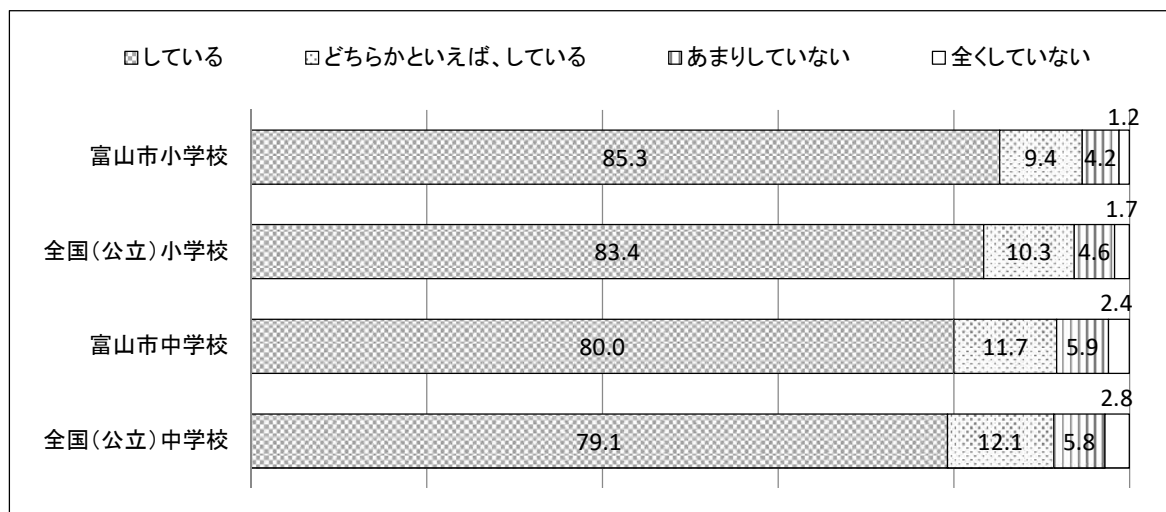
【家庭での生活】

12 ★携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っているか。



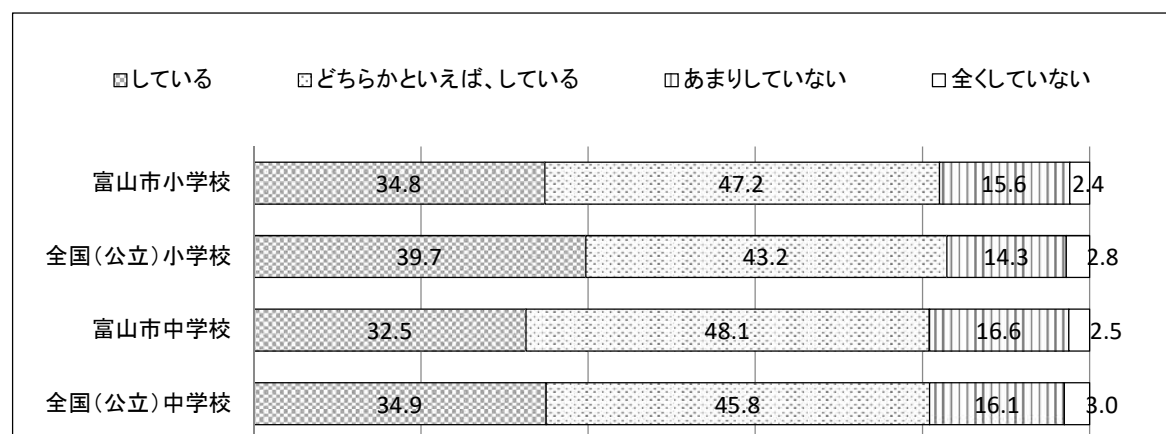
※ 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」「だいたい守っている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

13 朝食を毎日食べていますか。



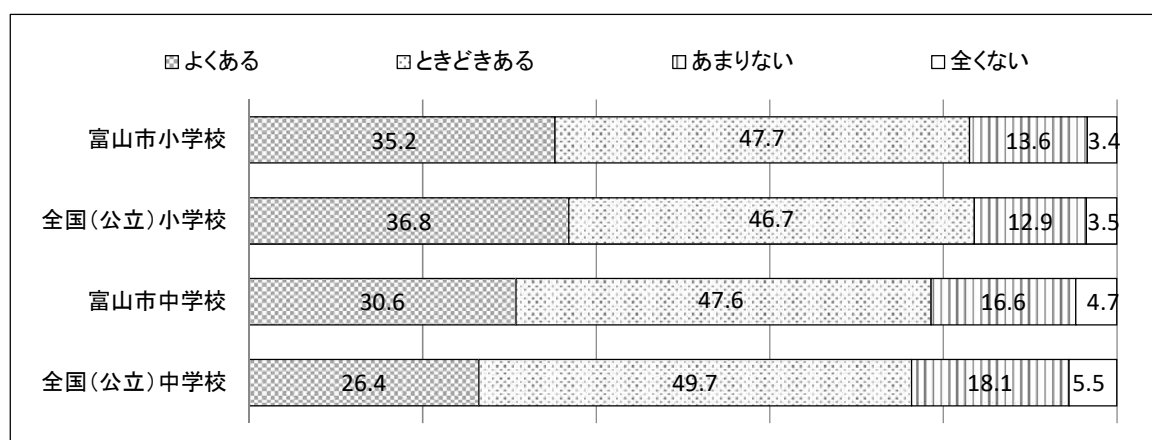
※ 「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば、食べている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

14 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

15 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

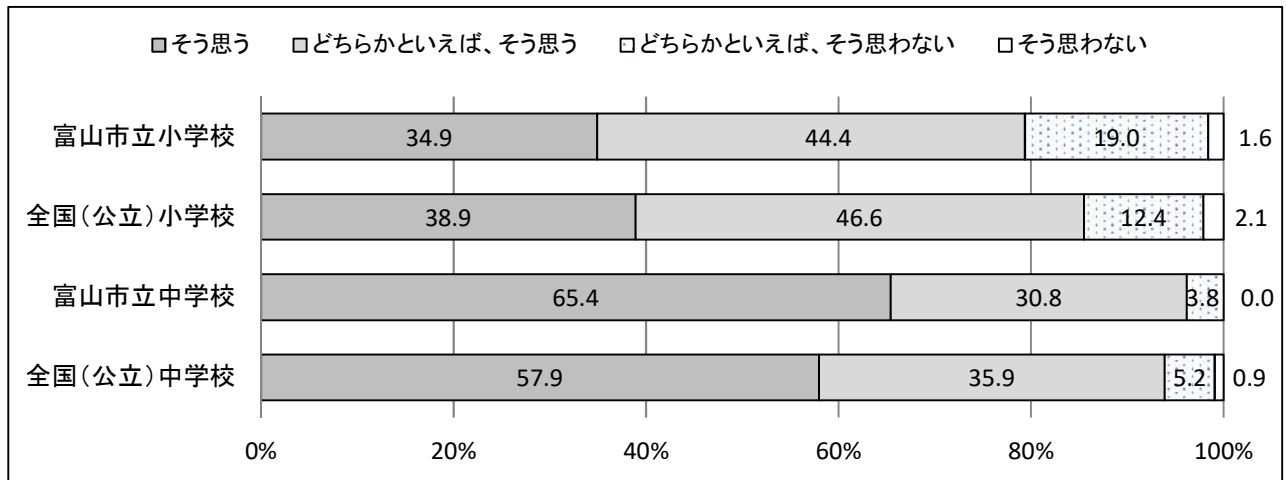


※ 地域や社会をよくするために何かしてみたいことが「よくある」「ときどきある」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

5 学校質問調査 (◎のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)
※ その他・無回答は、データに含んでいない。

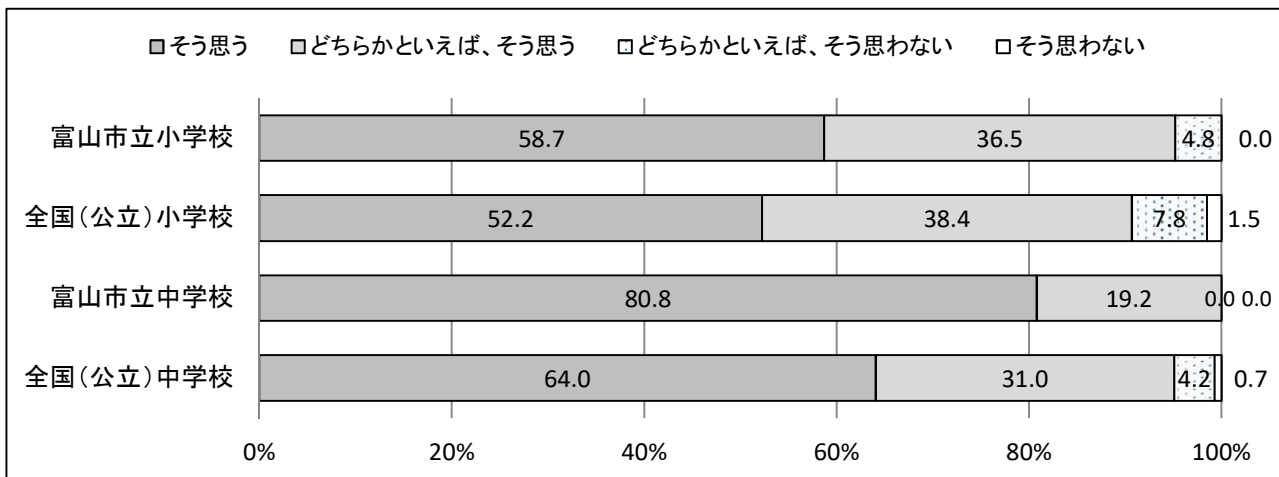
【児童・生徒指導等】

1 授業中の私語が少なく、落ち着いている



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国と比べて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。

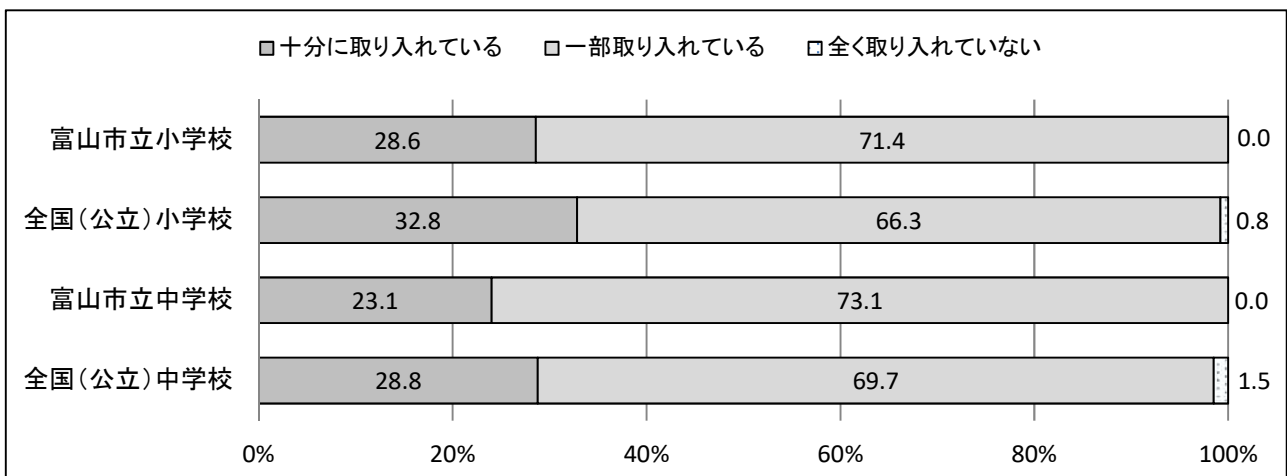
2 ◎スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したい時に相談できる体制になっている



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国と比べて、小学校はやや高く、中学校は高い。

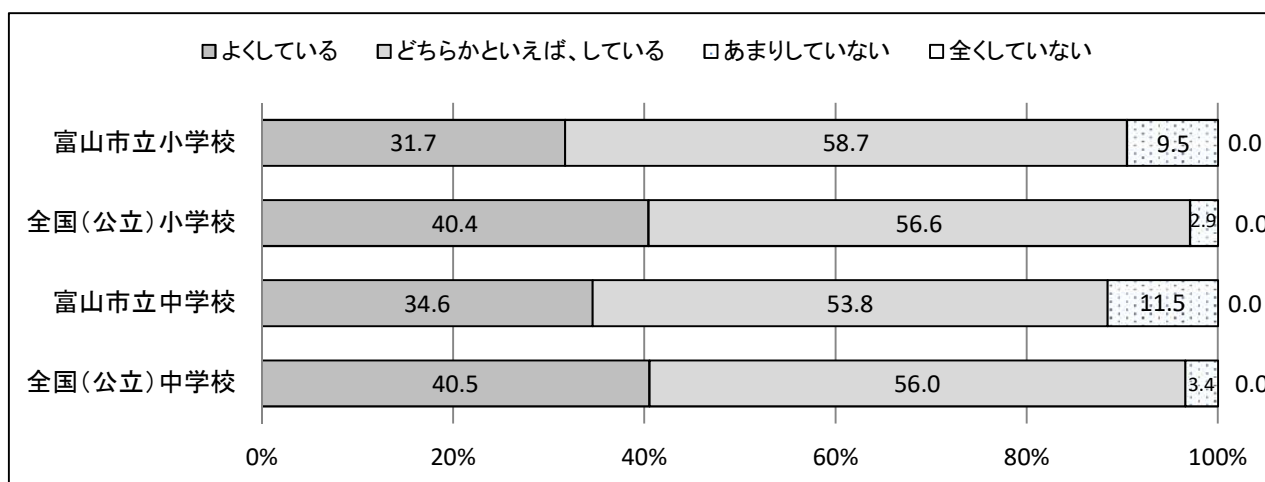
【学校運営に関する状況】

3 ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れている



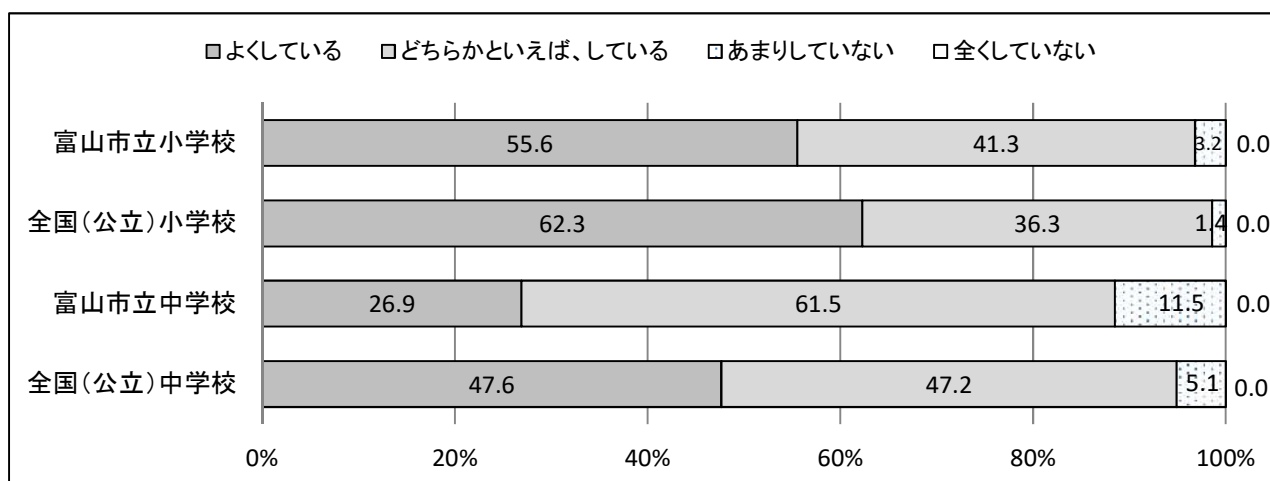
※ 「十分に取り入れている」「一部取り入れている」学校の割合は、全国と比べて、小・中学校ともにほぼ同じである。

4 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小・中学校ともに低い。

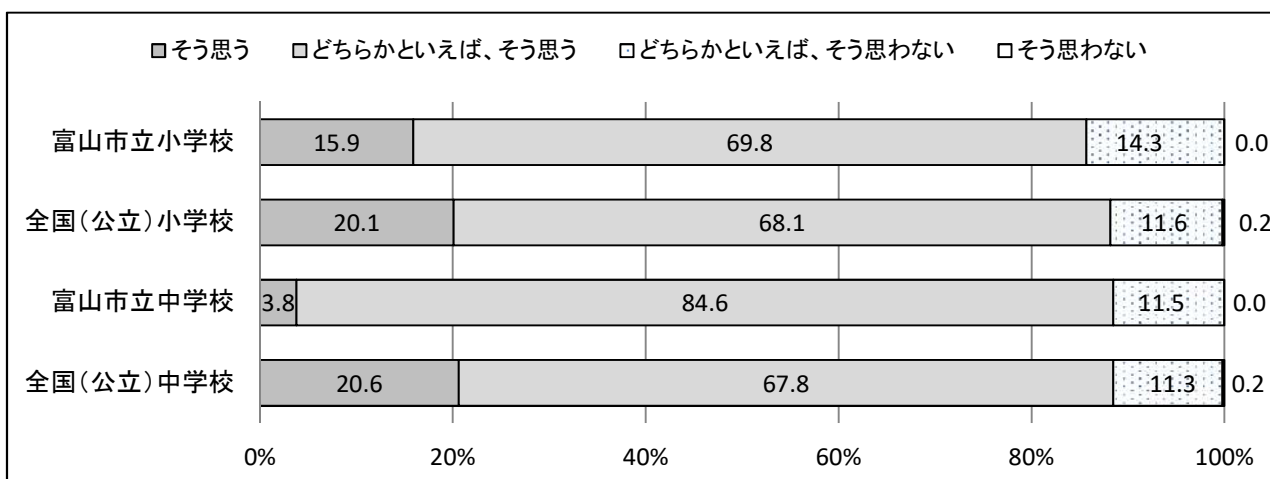
5 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小学校はほぼ同じであり、中学校は低い。

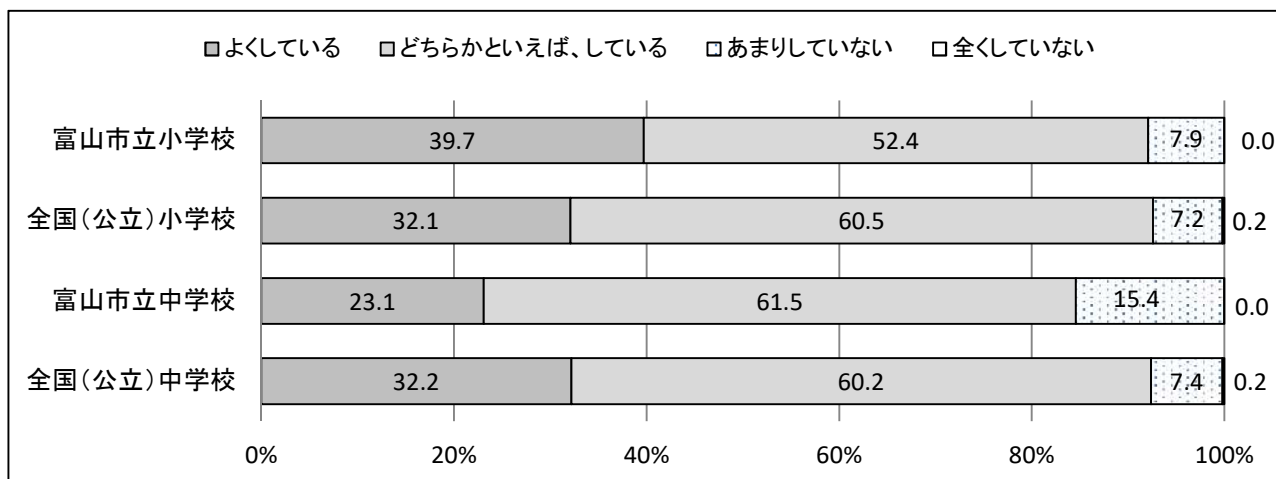
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

6 児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる



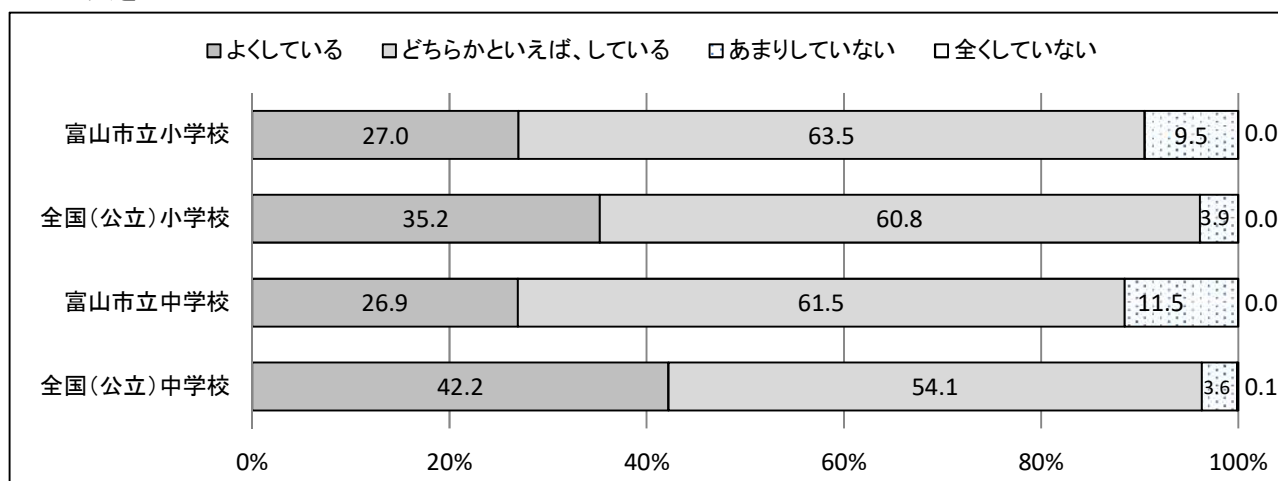
※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国と比べて、小・中学校ともにほぼ同じである。

7 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小学校はほぼ同じであり、中学校は低い。

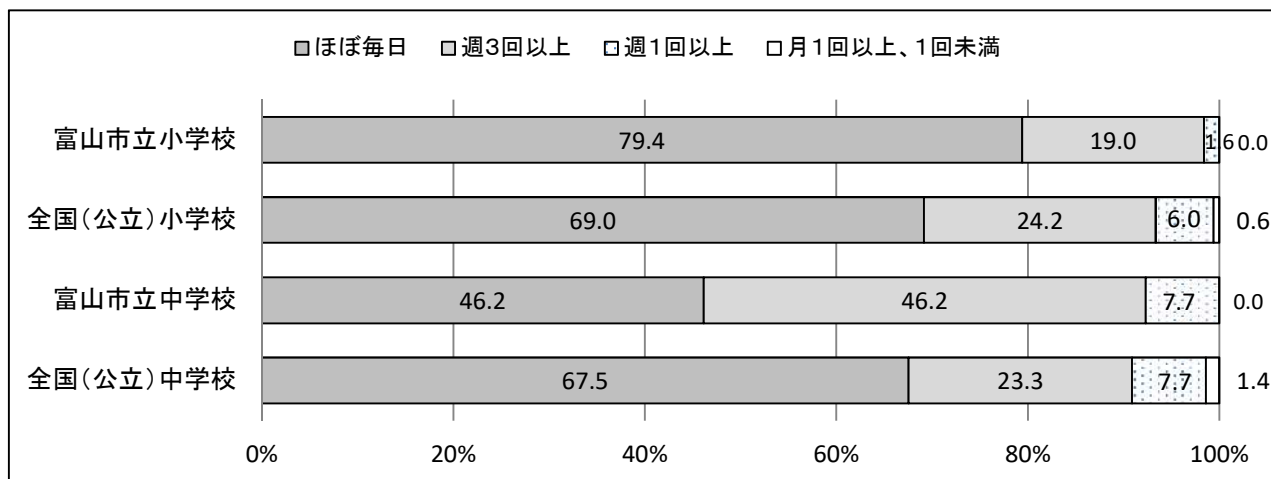
8 特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国に比べて、小・中学校ともに低い。

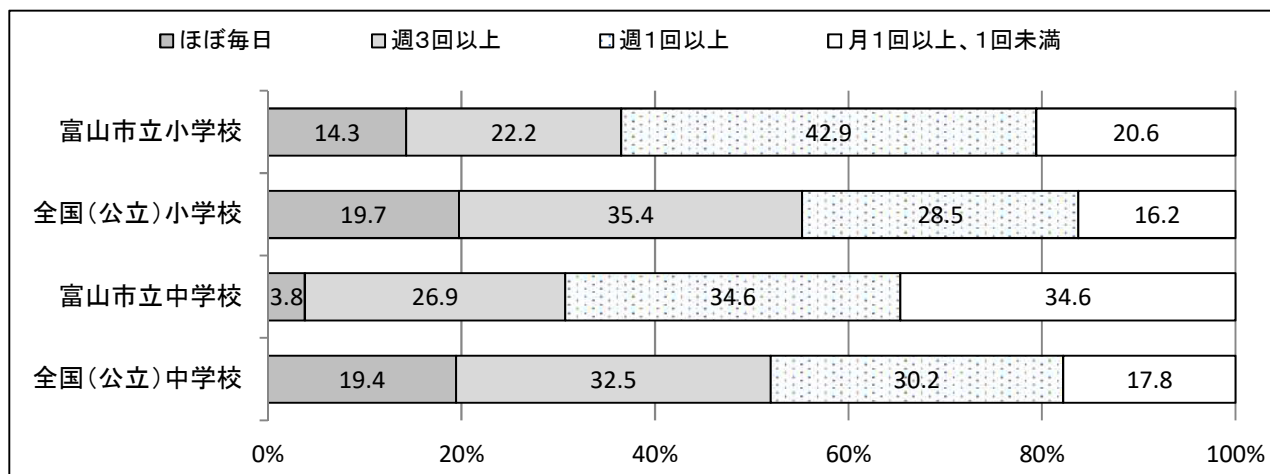
【ICTを活用した学習状況】

9 一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」活用した学校の割合は、全国に比べて、小学校は高く、中学校はほぼ同じである。

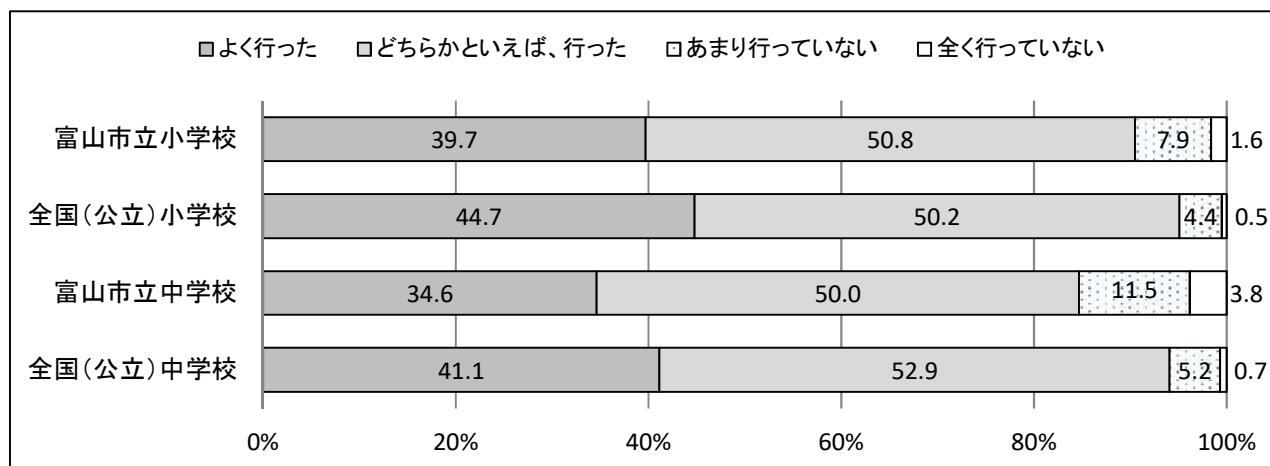
10 自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」活用した学校の割合は、全国に比べて、小・中学校ともかなり低い。

【特別支援教育】

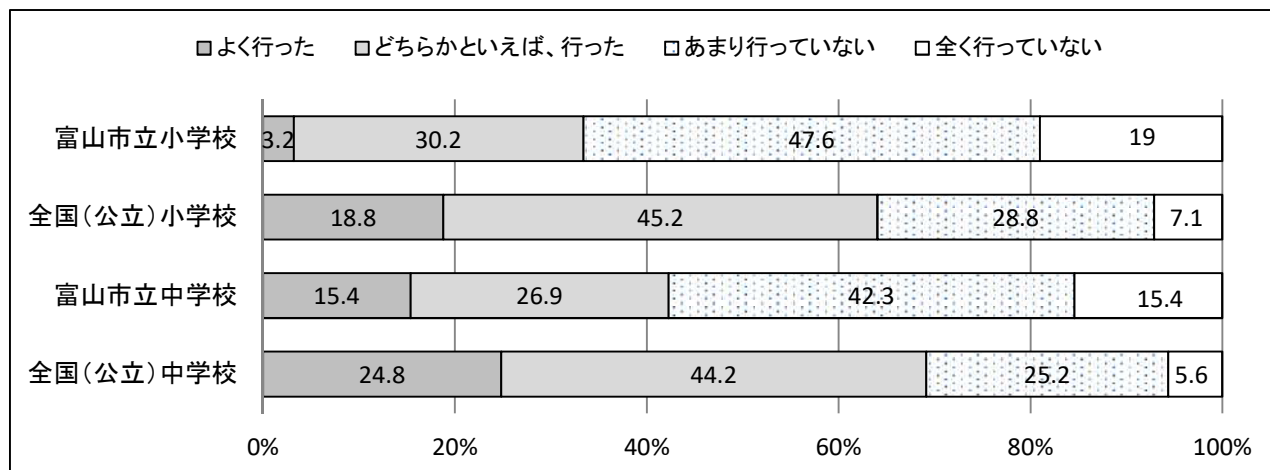
11 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに児童生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや低く、中学校は低い。

【小学校教育と中学校教育の連携】

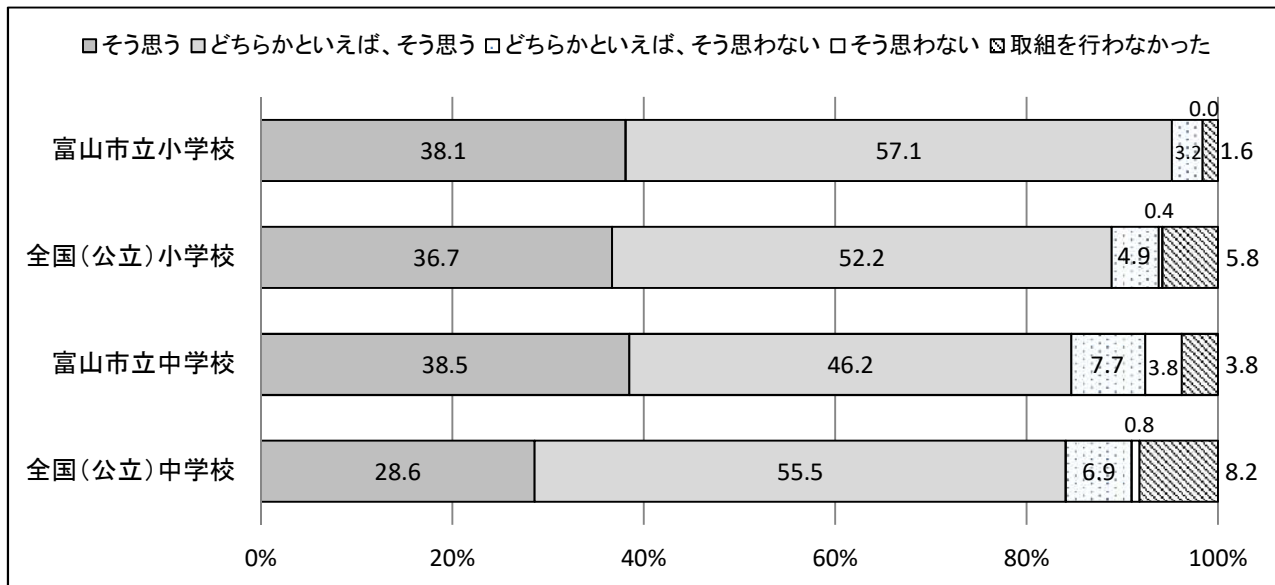
12 前年度までに、近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取り組みを行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小・中学校ともかなり低い。

【家庭や地域との連携等】

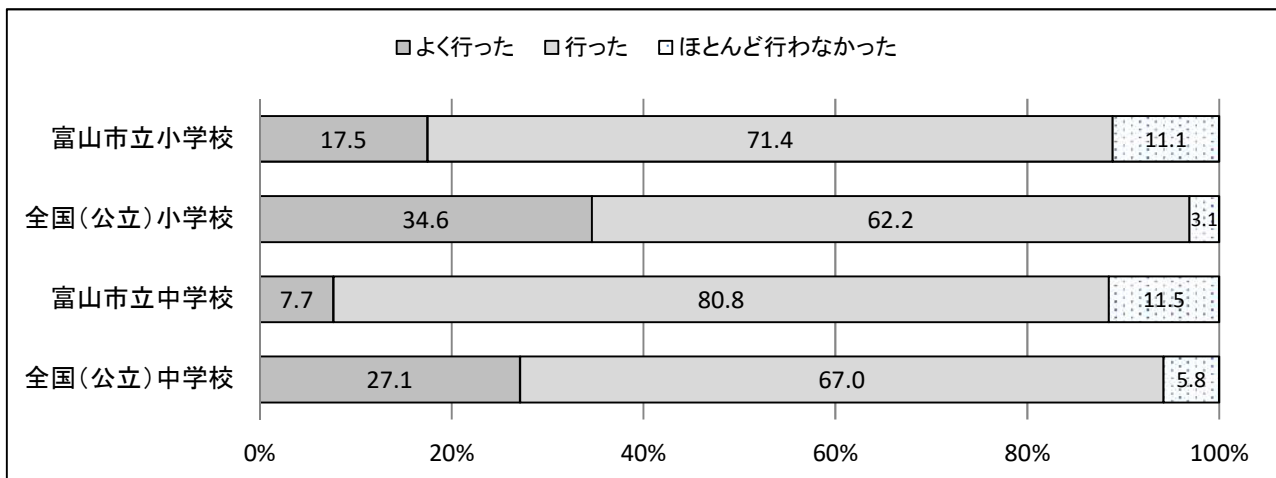
13 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった



※ 「思う」「どちらかといえば、思う」学校の割合は、全国に比べて、小学校は高く、中学校はほぼ同じである。

【調査結果の活用】

14 令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した



※ 「よく行った」「行った」学校の割合は、全国に比べて、小・中学校ともに低い。